

平成29年度

# 研修集録

第 32 号

秋田市立秋田商業高等学校



## 「学び上手」な教師

校 長 佐 藤 武

今年度は、「学びの意欲を喚起するための授業改善～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～」をテーマに、研修部主導のもと授業改善に取り組んできました。2回の校内授業公開週間では、アピール授業などで先生方の取り組みを拝見させていただきました。ICTの活用、ペアワーク・グループワークなど、様々なスキルを用いて、1時間の授業の中に主体的・対話的な深い学びを意識した生徒の活動場面が多くなり、学びの意欲を喚起するための授業が行われていると感じました。今後も引き続いて、授業改善に取り組んでいただきたいと思います。

『内外教育』（2月2日号）の「ひとこと」欄に「校内研修の改革ー学びを中心にー」という佐藤学学習院大学教授による次の寄稿文が掲載されていました。

10年ほど前、琵琶湖周辺の小さな学校で昭和10年前後の校内研修の詳細な記録資料を発見した。その資料を見ると、4月に研究部が組織され、年間3回の研究授業が計画され（授業提案者は若い教師）、毎月の研究会で教材研究、発問計画、板書計画、指導案作りが行われ、そして授業研究会では授業者の反省から始まり、どこかの教え方が良かったか、どこを改善すべきかが語り合われ、最後に視学官が講評を述べている。今と同じでないか。80年間で社会は大きく変化したというのに、校内研修は何も変化していない。このままでは、80年前の授業が再生産されるだけである。

校内研修の目的が「主体的・対話的で深い学び」の創造にあり、教師の専門家としての成長と校内の同僚性の構築にあるとすれば、校内研修の改革は必須の課題である。

私が訪問する学校では①すべての教師が年に1回以上、研究授業を行う②教師の教え方でなく、子どもの学びを省察し語り合う（どこで学びが成立したのか、どこでつまづいたのか、どこに学びの可能性があったのか）③評価や助言でなく、教室の事実から学んだことを語り合う④すべての教師が一言は発言するーという原則で、校内研修を行っている。

観察と研究の対象を教師の「教え方」から子どもの「学び」に転換することは重要である。正しい教え方は100通りある。いくら「教え方」を議論しても教師間の対立が深まるだけである。評価や助言の交流でなく、教室の事実から学んだことを交流することはもっと重要である。初心者ほど「どこが良かったか」「どこが悪かったか」と評価する傾向がある。卓越した教師は「学び上手」なのである。教室の事実からの学びを交流することで専門家としての成長が促進される。

アクティブ・ラーニングの実現は、校内研修の改革と個性と多様性を尊重し合う教師の学びの共同体づくりを要請している。

授業参観の場合、多くの先生方は指導者側の動きを中心に観察しているのではないのでしょうか。生徒の「学び」に着目して観察することは少ないと思います。授業の主人公は学ぶ側の生徒たちです。是非、今後行われる研究授業や授業公開週間のアピール授業等では、生徒の「学び」に着目して授業を観察してみたいかがでしょうか。視点を変えることにより、授業改善のヒントになる新たな発見があるかもしれません。先生方も「学び上手」な教師を目標にし、専門家として成長してほしいと思います。

結びに、日々の業務を行いながらの多忙の中、原稿をお寄せ頂きました皆様に感謝し、発刊の挨拶と致します。

# 目 次

◎巻頭言 「学び上手」な教師	校長	佐藤 武	
<b>I 指導主事訪問（研究授業）</b>			
◇日程・訪問指導主事		教務部	…… 3
◇研究授業の学習指導案と協議会（商業科）	商業科	小林 克	…… 4
		宮野 雄成	
◇研究授業の学習指導案と協議会（地歴・公民科）	地歴・公民科	今 聡	…… 14
◇全体協議会		教務部	…… 22
<b>II 校内研修の記録</b>			
◇第1回校内職員研修			
「発達障害等により特別支援が必要な生徒への対応について」		研修部	…… 25
◇第2回校内職員研修			
「学校を巡る近年の状況の変化とこれからの教員に求められる資質能力について」		研修部	…… 28
<b>III 勝平中学校との学校間連携</b>			
◇勝平地区小・中・高・特別支援学校連携協議会参加報告		研修部	…… 36
◇勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会参加報告		研修部	…… 38
◇勝平中学校2年生による商業科目授業体験	商業科	佐藤 和佳	…… 41
		柏谷 亜紀子	
<b>IV 授業公開週間</b>			
◇実施報告		研修部	…… 51
◇第2回授業公開週間 授業紹介		研修部	…… 59
<b>V 報告</b>			
◇ビジネス実践			
ビジネス実践『AKISHOP』	商業科	櫻庭 咲子	…… 63
平成29年度キッズビジネスタウンの取り組み	商業科	石田 雄哉	…… 65
エコロジカルビジネス 環境教育の試み	英語科	大堤 直人	…… 68
◇全国高等学校国語研究大会兵庫大会に参加して	国語科	近野 祥子	…… 69
◇新任特別支援教育コーディネーター研修会について			
	保健・教育相談部	戸田 潤子	…… 72
◇高等学校中堅教諭等資質向上研修を受講して	保健・体育科	佐藤 寛仁	…… 76
◎平成29年度研修対象者・研究会等参加者一覧			…… 82
◎編集後記		研修部	

# 平成29年度 指導主事訪問

教 務 部

1 期日：平成29年6月26日（月）

## 2 訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事 北嶋 力 先生  
 秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事 佐藤 貴之 先生  
 秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事 大月真由美 先生  
 秋田県教育庁高校教育課 指導主事（商業） 野呂田義彦 先生  
 秋田県教育庁高校教育課 指導主事（公民） 小松 隆行 先生

## 3 日程

時 間	内 容	授 業
9:15～10:00	1校時	通 常
10:10～10:55	2校時	通 常
11:05～11:50 11:20～ 11:30～11:50	3校時 指導主事来校 学校経営説明〈校長室〉	通 常
12:00～12:50	4校時 校内授業参観	5校時の授業
12:50～13:30	昼食〈校長室〉	
13:30～14:20	5校時 研究授業（商業・公民） 情報処理：グラフの作成 ：小林 克先生・宮野雄成先生 ：1年A組 〈プログラミング室〉 現代社会：平等に生きる権利 ：今 聡先生 ：1年F組 〈1年F組教室〉 ①他のクラスは通常授業。 ②研究授業の様子はビデオ撮影します。	4校時の授業
14:20～14:40	生徒：清掃活動、放課	
14:45～15:35	各科協議会：商 業 科〈会議室〉 公 民 科〈語学室〉 ①全員の先生がどちらかの協議会に参加します。 ②必要に応じて撮影したビデオを参考にできます	
15:45～16:30	全体協議会〈会議室〉 ①指導助言 秋田県教育庁高校教育課 ②総評 秋田市教育委員会学校教育課 ③質疑応答 ④校長より	

# 1年A組 商業科「情報処理」学習指導案

日 時：平成29年6月26日(月) 5校時  
場 所：プログラミング室  
指 導 者：小林 克、宮野 雄成  
使用教科書：情報処理 新訂版

## 1 単元名 第3章 ビジネス情報の処理と分析 第3節 グラフの作成

## 2 単元の目標

表計算ソフトウェアのグラフ作成機能を利用して、表からいろいろなグラフを作成する方法を身に付ける。

## 3 単元と生徒

(教材観) グラフの作成は、検定試験でも出題されており、大切な分野である。与えられたグラフを作成するに止まることなく、どのように工夫をしたらより他者に伝わるグラフになるのか考えさせて作成させる。

(生徒観) 男子18名、女子22名が在籍している。授業に集中することができ、さらには意欲的に活動できる生徒たちである。

(指導観) グループを作るのは今回が初めてであるが、生徒が意見を出し合い、集約していく作業を大切にしたい。また、生徒のアイデアを引き出すためにも、教師側からの指示は必要最小限にすることを心掛ける。

## 4 指導と評価の計画 第3節 グラフの作成 (4時間)

### 1 種類と概要 (2時間)

### 2 基本的なグラフの作成 (本時1 / 2時間)

#### 【評価規準】

関心・意欲・態度 (A)	思考・判断・表現 (B)	技能 (C)	知識・理解 (D)
・データをグラフ化してわかりやすく表現することに興味を持ち、様々なグラフを積極的に工夫して作成している。	・目的に応じて適切なグラフを選択したり利用することができる。	・表のデータを基に、棒、折れ線、円、レーダーチャートなどのグラフを目的に応じた形で作成することができる。	・データをグラフ化してわかりやすく表現することの必要性を理解している。 ・各グラフの特徴やグラフを構成する要素について理解している。

## 5 本時の計画

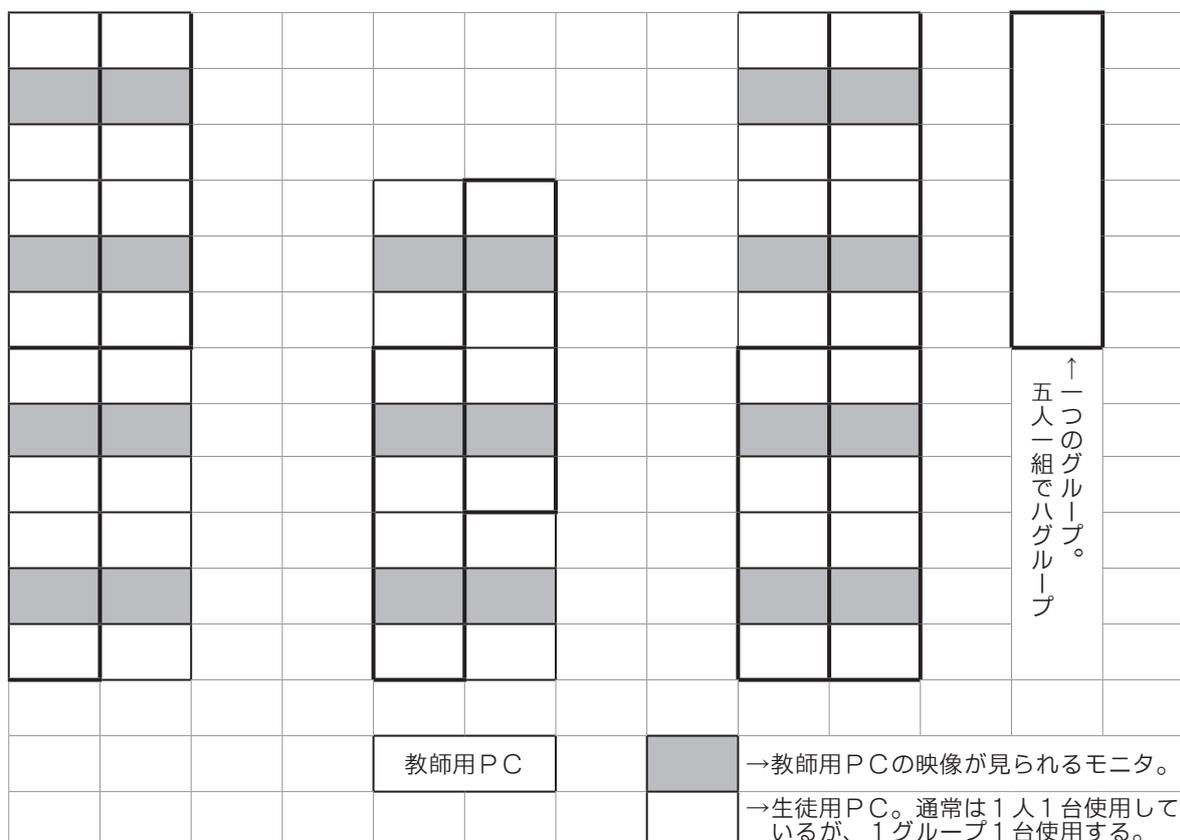
- (1) **ねらい** 決められたグラフを作るのではなく、自分たちで工夫し、他者に「伝わる」グラフの作成にチャレンジする。

(2) 展 開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
導 入 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グラフの作成について復習する。</li> <li>・ 本時の課題を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の提示と、本時の進め方について確認させる。</li> </ul>	
展 開 40 分	本時の目標：仲間と協力し、工夫しながら、他者に「伝わる」グラフを作成する！		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリントに仲間の発言などを記入することが大切であることを理解させる。</li> </ul>	
	発問：この大量なデータで各グループが他者に伝えたいことは何ですか？		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データのどの部分を用いて何を伝えたいのかを話し合う。</li> <li>・ どのようなグラフを作成すると他者に「伝わる」グラフになるのか考え、意見を出し合い、仲間と意見をまとめていく。</li> <li>・ データを入力し、タイトルとグラフを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループで統一した基本的な作成方法を簡単に指導し、理解させる。</li> <li>・ 作成したExcelファイルを指定されたフォルダ内に保存させる。</li> <li>・ 机間巡視をし、生徒が声をかけやすい環境を作る。</li> <li>・ 答えを教えるのではなく、答えに生徒自身がたどり着けるようヒントを与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のアイディアを積極的にグループ内に反映させようとしている。(A)</li> <li>・ グループの意見を集約している。(B)</li> <li>・ データをグラフ化してわかりやすく表現することに興味を持ち、工夫して作成しようとしている。(A)</li> </ul>
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習内容の要点を確認するとともに、しっかりと保存できているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習の進み具合を評価し、次回の授業内容を確認させる。</li> </ul>	

【備考】

○プログラミング室のレイアウト



○現在の様子

- ・グループはまだ編成していない。当日までには男女混合のグループを8グループ編成する予定。
- ・Excelを用いて、関数の学習を行っている。グラフの作成については、当日までに2時間行い、多少作ることができる状態で当日を迎えることになる予定。

○その他

・この授業の次の授業で、グループ内での話し合いの経緯、作成した感想などを発表させることも準備している。また、どの班の内容が素晴らしかったと思うか、1人1グループを選び、投票させたり、他のグループのグラフについてどう思うか、グループで話し合わせることも、話し合った内容を付箋に書いて貼ることも考えている。

→ 当日のグラフの作成が、考えていたよりも早く進み、早く終わった場合は上記の内容で授業を進めていきたいと考えているが、じっくりと考え、話し合い、その内容を協議し、そこからグラフを作成するということを最優先して授業を進めたい。

## コンビニエンスストア店舗数都道府県別ランキング

	都道府県	2017年3月末店舗数							上位7 チェーン 合計↓
		セブン	ファミリー	ローソン	サークル	ミニストッ	デイリー	セイコー	
		イレブン	マート		K サンクス	プ	ヤマザキ	マート	
1	東京都	2,481	2,101	1,585	496	293	150	-	7,106
2	大阪府	1,135	1,186	1,054	289	91	142	-	3,897
3	愛知県	1,015	865	626	941	220	81	-	3,748
4	神奈川県	1,001	888	855	888	444	222	111	3,580
5	北海道	888	888	888	888	888	888	888	2,917
6	埼玉県	888	888	888	888	888	888	888	2,817
7	千葉県	888	888	888	888	888	888	888	2,608
8	福岡県	888	888	888	888	888	888	888	2,198
9	兵庫県	888	888	888	888	888	888	888	2,035
10	静岡県	888	888	888	888	888	888	888	1,759
11	茨城県	888	888	888	888	888	888	888	1,406
12	宮城県	888	888	888	888	888	888	888	1,148
13	京都府	321	267	329	86	42	38	-	1,083
14	広島県	566	251	199	29	-	36	-	1,081
15	長野県	442	170	173	116	-	33	-	934
16	岐阜県	168	175	164	244	101	53	-	905
17	栃木県	422	190	157	43	34	18	-	864
18	福島県	419	171	131	11	85	19	-	836
19	新潟県	407	108	148	90	-	68	-	821
20	三重県	138	224	131	222	97	-	-	812
21	群馬県	456	117	115	17	56	30	-	791
22	岡山県	297	153	172	106	-	15	-	743
23	熊本県	309	202	144	-	-	54	-	709
24	鹿児島県	184	282	191	-	-	-	-	657
25	愛媛県	98	139	214	123	10	6	-	590
26	青森県	49	78	234	170	32	14	-	577
27	滋賀県	228	126	154	41	7	2	-	558
28	山口県	312	99	122	-	-	3	-	536
29	石川県	125	120	102	176	-	12	-	535
30	沖縄県	-	318	211	-	-	-	-	529
31	岩手県	131	130	167	62	12	26	-	528
32	富山県	130	118	186	62	-	8	-	504
33	長崎県	175	159	105	-	-	50	-	489
34	秋田県	84	90	189	84	-	22	-	469
	大分県	157	117	176	-	4	15	-	469
36	山梨県	206	88	123	-	-	39	-	456
37	奈良県	140	117	128	31	14	24	-	454
38	山形県	173	121	105	40	-	7	-	446
39	香川県	101	121	132	17	38	18	-	427
40	宮崎県	182	123	104	-	-	1	-	410
41	佐賀県	185	80	68	-	17	11	-	361
42	和歌山県	77	101	137	25	-	20	-	360
43	福井県	67	114	110	54	8	-	-	353
44	徳島県	90	72	132	21	21	3	-	339
45	高知県	34	60	135	53	-	-	-	282
46	島根県	43	66	150	-	-	1	-	260
47	鳥取県	16	71	138	-	-	-	-	225
	合計	19,423	13,189	13,110	4,877	2,266	1,570	1,177	55,612

このデータを生徒に配り、この中で自分たちがグラフを作成し、伝えたい内容について考え、このデータのどの部分を用いて、どうグラフ化していくかを考えさせたり、話し合わせたりする。

# グラフの作成

平成29年6月26日(月) 5校時

メンバーの名前を記入 \_\_\_\_\_ 班

①

グループ内で話し合ったことをメモに残そう！

②

グループ内で話し合ったことをメモに残そう！

## 指導主事訪問協議会（商業科）

日時：平成29年6月26日（月） 14:45～15:30

場所：秋田市立秋田商業高等学校 会議室

司会：大久保 薫 先生 記録：高橋 伴和

### 〈1〉はじめに（司会：大久保 薫 先生）

- ・ 2名の指導主事（秋田市教育委員会1名、秋田県教育庁高校教育課1名）の紹介。
- ・ 協議会の進め方はまずは授業者から説明をいただく。そしてグループに分かれてグループ協議をして各グループから3分程度の協議内容の発表。そして中村教頭先生から総括をいただき、指導主事の先生から指導助言をいただく流れで進めていく。
- ・ グループ協議の視点をあらかじめ参観シートに載せておいた。一つ目は、①「授業の組み立て、展開、指示の工夫や生徒の学習活動についての支援は適切であったか」。二つ目は、②研修テーマの「学びの意欲を喚起するための授業改善についての工夫は適切であったか」である。この2点に絞って協議していただく。
- ・ グループ協議については、まとめ役、記録役、報告役を決めて行ってください。それでは授業者の小林先生から授業の構想、ねらい等の説明をお願いします。

### 〈2〉授業者から説明（授業者：小林 克 先生）

- ・ 5校時はありがとうございました。宜しくお願ひいたします。
- ・ 赴任して5年目になり、情報処理をもつのは4年目になる。ずっとTTでやってきたが今年度は初めてメインで授業を行ってきた。
- ・ 今日の授業は、グラフ作成の4時間の内の3時間目になっている。いつもは問題集や教科書のグラフを機械的に作成していたが、本時はデータを提供し、自分たちで伝えたいことは何かを考えてもらいたいと思い、このように授業を展開してみた。
- ・ 説明不足のところもあったかもしれないが、説明を多くするとこちらの考えで生徒が動くかもしれないと考え、できる限り説明を少なくして、生徒同士で話し合いながら進めていくイメージをもっていた。
- ・ 実際に授業をやると、全部の班の細かい部分までチェックはできなかったが、考えていなかったアイデアを出してくるグループもあり、生徒の発想力に驚いた。色々な発想があったことから、生徒の頭は活動していたのではないかと。
- ・ グラフ作成だけでなく、次の時間で発表する部分と、他のグループが作成したグラフを評価するという部分で、次の時間も大事になってくると考えている。各班の発表を聞いて、良かったところと、改善点を発表させ、付箋に記入させ貼っていくスタイルで進めていこうと考えている。一人三票のシールを準備し、抜き出したデータが良かった班に一票、グラフ作成が上手だと思う班に一票、そして総合的に見て伝わっていると思うところに一票というように考えている。情報処理でのグループ活動は初めての試みであった。今回の良い点と反省点を生かしながら、グループ活動を取り入れるのも良いと感じた。色々ご意見を宜しくお願ひいたします。

### 〈3〉グループ協議（15分）

#### 〈4〉各グループからの発表

##### 1班：高橋 伴和 先生

###### ①の成果

- ・指示が明確であり生徒がわかりやすい。
- ・段階をふんで先生に確認させているため生徒が何をやるのかがわかる。
- ・グラフを作成する本質を話してから目標を提示している。
- ・答えがいくつもある課題を作っている。

###### ①の課題と改善策

- ・T2の役割（課題の提出先を二人にすると時間の短縮になる）。
- ・一つの班で一つのグラフではなく、一つのテーマで色々なグラフを作成すれば、一人一人の練習にもなるし話し合いも進むのではないか。
- ・データの種類を多くすれば、話し合いも深まるのではないか。

###### ②の成果

- ・題材が「コンビニ」で生徒にとって身近であった。
- ・話し合いを活発にするために、答えがないものを題材としている。答えを目的としていないため、話し合いが進んでいる。

###### ②の課題と改善策

- ・もっと色々なデータがあれば色々なグラフを作成できる。
- ・班の人数を少なくすれば、何もしていない生徒がいなくなるのではないか。

##### 2班：小山 壘 先生

###### ①の成果

- ・導入の部分で見やすいデータと見づらいデータを説明していることから、どのようなグラフを作れば良いかがわかる。
- ・話し合いがうまくいっていないグループへの声かけを積極的に行っていた。
- ・ヒントを与えることで生徒の学びを深めることができた。
- ・個人の学びではなく、グループ学習という新しい授業形態を行っていた。

###### ①の課題と改善策

- ・プログラミング室は狭いため、授業を開始する前にグループになっているほうが時間短縮につながる。
- ・グループの人数を3人程度にして遊んでいる生徒がでないようにすれば良い。
- ・分析に時間をかけて、何を伝えるのかをしっかりと話し合いをする。
- ・時間の使い方、TTの意義を考えなければならない。

## ②の成果

- ・一つのデータから色々なグラフを作れることを説明することで、生徒の興味関心を引き出している。
- ・話し合いのポイントを話していた。(じっくり話し合うことが大事だよ。話し合ったことはメモしなさい。)
- ・身近な事柄を教材にすることで、生徒が意欲的に取り組む事ができたのではないか。
- ・ワークシートを活用することで、自由な発想で記入することができた。

## ②の課題と改善策

- ・ワークシートをデータで配布しても良かったのではないか。
- ・グループ学習の中で、消極的な生徒への指導やサポートが、これからのアクティブラーニングの課題である。

3班：佐藤 大 先生

## ①成果

- ・話し合いの結果を入力して、モニターに表示していたので、他の班のことが見えてよい。
- ・細かい指示があり、あのような授業形態でも話を聞いている。
- ・一人の疑問を全体で共有している。

## ①の課題と改善策

- ・話し合いの前後の時間もたついてもったいない。
- ・データが多かったため、教材で配布すれば良かったのではないか。
- ・グラフ作成が代表の一人であったため、他がひまになっていた。
- ・T2の役割がただ机間巡視するのではなく、役割分担を詳細化するべきではないか。
- ・ホワイトボードとセンターモニターの使い方をもう少し考える。
- ・場所を教室にしてノートパソコン8台で行えばいいのでは。
- ・指導案にT1とT2の動きを明記する。
- ・グループ全員で動いたりするのはムダだったのではないか。
- ・プログラミング室でのグループ活動は厳しいのでは。

## ②の成果

- ・たくさんあるデータから、自分でテーマを決めて、データを決める等、話し合うことが多くあり良い。
- ・コンビニを取り上げていて、生徒が取り組みやすい。

## ②の課題と改善策

- ・「他者に伝わるグラフ」にたどりつくために、グループで一番できる生徒が作っているように見える。できない生徒が、なぜそれを作れたのかなどわからない状況になっているのではないか。
- ・グループの人数が多いので、もう少し減らして各自に役割分担をすることが必要。

## 〈5〉中村教頭先生からの総括

- ・宮野先生と小林先生授業お疲れ様でした。
- ・情報処理の実習において、グループで問題解決をするというテーマの研究授業だと思う。指導案にも書かれてあったがグループを作るのは今回が初めてである。そうしたことから今回の授業は情報処理の実習におけるグループ学習、協同して問題解決をするという生徒同士の学び合いが一つ、もう一つは自分たちで問題を設定して問題を解決するという二つの提案がされた研究授業だったと思う。研究授業とは日頃自分がやられている授業を披露し、意見をいただくという授業もあるが、このように提案していただくというのは貴重な授業だった。この提案を自分の授業へも取り入れるなど、共有することにより学校全体の向上につながるのではないかと思う。欲を言えば、答えの無いテーマで話し合うということは良いことではあるが、何を伝えたいのかという事が一番ベースにあったほうがよいのではないか。各班で様々な設定をしていたが、なぜこのように比較をするのか、なんのために比較をするのか、この比較をしたいからこのデータを使ってグラフ作成するというようなことがあれば、もっと良かったのではないか。ただ、今回の授業は大きな提案をしていただいたと思う。授業改善ということで様々な場面で言われているが、授業改善の方向は様々時代によって変わってきている。今求められている授業改善というのは、身につけた知識や基本的な知識や技能を活用して、いかに問題解決をしていくかというような授業改善が必要とされている。そうしたことから「活用型授業」が求められている。そうしていくためには、日々の授業から生徒がなぜだろう、どうすれば解決できるのだろう、という問題を常に持つ授業を展開していかなければならない。そのためには発問・学習課題で単元にかかわらず本質的な発問をじっくりと検討することが大事である。簡単ですが終わります。本当にお疲れ様でした。

## 〈5〉大月真由美 秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事からの指導助言

- ・平成23年度から職に就き、4回目の訪問となる。正直、最初に訪問させていただいたときは、先生方が一方的にしゃべってひたすら黒板にたくさんの情報を書き、それを生徒がノートに写すという授業だった。ところが、年々訪問していくうちに、先生方が生徒たちとやりとりしている授業や、今日のようにグループ学習など、だんだん授業が改善されていく様子が見受けられる。先生方の授業改善への熱意が感じられる。先ほどアクティブラーニングのお話があったが、子供たちが一生懸命活動して動いているイメージがあると思うが、そうではなく「脳が活発に動いている」というイメージを持っていただければ良い。つまり、頭を使って疲れたという実感を持つ授業が、アクティブラーニングだと記憶している。先生方もお解りのように、2020年から小学校でプログラミング学習が必修化となる。小学校の先生方は非常に悩んでいるところであるが、今日の授業を拝見させていただき、たとえば商業高校の先生方に色々と教えていただく機会があれば良いと感じた。それから幼児教育、小学校、中学校、高校教育のつながりが、よりいっそう重視されると言うことで、高校の先生方も小学校の授業を見る機会があれば良いと感じた。
- ・今日の授業について授業作りという視点からいくつかお話しさせていただく。
- ・一つ目はグループの人数についてである。今日の授業では、三人がベストではなかったかと思う。お客さんになっていた生徒も見受けられた。
- ・二つ目は、話し合い活動についてである。何について話し合いをするのかということが明確に伝わっていなければならないのだが、何を伝えたいのかと言うことが重要であるため、今日の授業

---

であれば、たとえば、何を伝えたいかという事をシート上で話し合わせてから、そのあとでどのデータを抜き出すか、どのデータを使用するかということを考えさせても良かったのではないかと。あとは、並ばせることはしてはいけなと注意された。並んでいる間の時間ロスになるため、先生が動いてくださいと注意されたことがあった。

- ・最後に目標と振り返りについてである。今日は仲間と協力する、工夫する、他者に伝わるグラフを作成するという三つの目標があったと思うが、それを振り返りとして確認する必要があると感じた。今日は時間が無かったが、例えば、工夫であればどうしていれば工夫できたか判断することかということも確認する必要がある。本当に今日は授業改善とはこれだという授業を見せていただきました。ありがとうございました。

#### 〈6〉野呂田義彦 秋田県教育庁高校教育課 指導主事からの指導助言

- ・小林先生、宮野先生お忙しい中、研究授業お疲れ様でした。
- ・生徒も活発に話し合いをしているということで、本当に良い授業を見ることができたと思う。また協議会だが、先生方も意見・感想を活発に出していただいて、本当に実りある協議会になったのではないかと。県立高校では今年度も「組織で取り組む授業改善」というものを推進している。個々の先生方で授業は成り立つのではなく、学校全体、教科全体で授業の質や水準を高めよう、という取り組みである。本校におかれても全職員で研修をしているということで、本当に素晴らしいことだと思う。今後も継続していただければと思う。
- ・今日の授業に関して、グループワークのところに焦点をあてて、何点かお話しさせていただく。
- ・グループワークをするときは、やはり人数だと思う。何人で行うかということが、成功するかどうかに関わってくる。基本的には3人というのが言われている。他の先生方もグループワークの際には、3人というのを考えていただきたいと思う。
- ・次に、グループワークをするときに何をするのかということを確認に指示することが、成功かどうかに関わっている。特に手順を示す必要がある。今日はこれをやり、次に何をやるかという手順を明確に示さなければならない。その辺を工夫すれば、もっとよいグループワークになったのではないかと。思う。
- ・最後に商業教育は実学である。社会に結びついて、社会に出て役に立つということが大切である。今日の授業もコンビニのデータを使い、社会に出てから役立つ知識技術だったと思う。他の授業に関しても、商業科目を指導する時には、どう社会と結びつくか、どのようなことに役立つかということ意識した授業を展開していただきたいと思う。簡単ですが終わります。本日は素晴らしい授業をありがとうございました。

## 公民科 現代社会 学習指導案

実施日：平成29年6月26日(月)

クラス：1年F組

授業者：今 聡

### 1 単元名 第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方

#### 4 平等に生きる権利

### 2 指導目標

私たちの生活と日本国憲法のかかわりについて関心を高め、具体的事例をあげて考察し理解する。

### 3 生徒の実態

授業に対し意欲的な態度で参加する生徒が多く、活発な意見交換や積極的な発表も多く見られる。理解力も総じて高い。

### 4 指導と評価の計画

#### 〈評価基準〉

関心・意欲・態度 (A)	思考・判断 (B)	技能・表現 (C)	知識・理解 (D)
民主政治の基本原則である基本的人権の尊重について関心を高め、自ら考え積極的に相手に伝え、しっかり相手の意見を聞こうとしている。	人権に関して多角的に物事を考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえて公正に判断し、表現している。	社会的に弱い立場の人が、ともに生きていける社会を実現するために何ができるか考え、表現することが出来る。	基本的人権の具体的内容やその判例を理解し、知識を身につけている。

(1) **本時の目標** 「差別のない社会の実現のために何をすべきか(何が必要か)を考え、発表することが出来る」

#### (2) 学習過程

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	本時の目標の確認	本時の学習内容を確認する。	本時の目標を提示する。
展開 40分	(1)日本国憲法 第14条「平等権」	憲法の条文の穴埋めを行う。 形式的平等と実質的平等の違いを理解する。	具体例をあげて説明する (D)
	(2)差別について	現実的に存在する差別にはどのようなものがあるか考える。	
	差別のない社会の実現のために何をすべきか(何が必要か)		
		自分の考えをグループ内で発表する。グループの代表者はクラス全体に発表する。  どのような人々が差別を受けてきたか、また差別が生み出す影響について考え、発表する。	自分で出来ること、社会で出来ることの2つの視点から考察し、発表させる (B、C)  誰にでも平等に生きる権利があることを再確認させ、良い社会をつくることの大切さを説明する (B、C)
まとめ 5分	本時のまとめ	プリントに本時の内容の振り返りと本時の目標に対する自己評価を記入する。	

## 指導主事訪問協議会（地理歴史・公民科）

日時：平成29年6月26日（月） 14:45～15:30

場所：秋田市立秋田商業高等学校 語学室

司会：野呂耕一郎 先生 記録：高橋 賢右

### 〈1〉はじめに（司会：野呂耕一郎 先生）

- ・3名の指導主事（秋田市教育委員会2名、秋田県教育庁高校教育課1名）の紹介。
- ・前半は授業の組み立てや展開、指示や生徒の学習活動について。
- ・後半は感想などをざっくばらんに述べてもらう。
- ・最後に加藤教頭先生より総括をいただき、指導主事の先生2名からご指導をいただく。

### 〈2〉授業者から説明（授業者：今 聡 先生）

- ・本日はご参観いただき、ありがとうございました。
- ・今年度は、本時の目標の立て方として「アウトプット型」を意識している。「～を理解する」ではなく、「～を説明できる」「～について発表できる」というような形にしている。今日であれば、グループで発表できればよく、さらに、全体に向けて発表できればもっとよいということで授業を進めた。
- ・「発表しやすい環境づくり」についても意識した。全体の場合では発表しにくくても、グループであれば発表できるような環境づくりを心がけている。できるだけ多くの人が発表することで、「主体的な学び」につながっていくと思う。
- ・「授業の振り返り」については、自分の意見を述べることも重要であるが、他者の意見を聞くことも重要だと考えている。他者の意見を聞いた上で、自分の意見を改めて考えることによって、「深い学び」につながっていくと考えた。

### 〈3〉参観者から

#### 1人目：泉 広宣 先生

- ・普段の授業スタイルが出ていた。
- ・グループ活動がうまくいっており、自主的に挙手する生徒が多かった。グループ内での発言も、生徒が積極的に発言しており、よかった。
- ・平等権については扱いが難しいが、最初に差別について認識させていたのがよかった。板書もポイントが絞られていて分かりやすくなっていた。

#### 2人目：佐々木絵里 先生

- ・プリントの作り方についてだが、生徒が非常にスムーズに解答できていた。どうして、スムーズに解答できていたのか。以前に授業などしていたのか。

回答：以前には行っていない。プリントを教科書の内容の順番にあわせているので、スムーズに解答できていたのかと思う。

---

※これに対して、野呂先生より「他のクラスではどうか」、加藤教頭先生より「憲法を暗記させたのではないのか」という質問も出た。他のクラスでも同様であり、憲法も暗記させているわけではないとの回答があった。

※この後、複数名から「素晴らしい研究授業であったこと」「職員の研修意識が高いこと」といった発言があり、「活発な協議会となっていること」が感じられた。

### 3人目：高橋 伸友 先生

・今日は男女別々のグループが作られていたが、テーマによっては男女で一緒のグループを作ることもあるのか。

回答：現段階では、グループにおいて話をすることを重視しているので、話しやすいグループを作っている。今後は、テーマによってグループを作れるようにしていきたい。

### 4人目：船山 毅 先生

・挙手する生徒については、今までもできていたのか。それとも、徐々にできるようになったのか。

回答：1年F組は、もともと活発なクラスで、積極的に発表してくれる。今日は、普段、発表しない生徒も挙手してくれたので、そういう環境が作れているとすれば嬉しい。

### 5人目：木村実樹夫 先生

・話し合いがスムーズに行われており、生徒の興味・関心が高いように感じた。憲法もしっかりと答えられていたので、生徒に予習させているのか。また、プリントはいつも使用しているのか。

回答：予習はさせていない。知っているか、知らないかという質問ではなく、「自分は思うか」というような質問にして、自分の意見を書かせるような演習にしている。また、授業ではいつもプリントを使用し、ノートは使用していない。

### 6人目：佐藤 寛仁 先生

・題材が「差別」というデリケートな内容で、秋田においては同和問題は少ないのだが、セクシャル・マイノリティーなどがもしかしたらいるかもしれない中で、言葉遣いや少数派が偏見を持たれないように注意していることはあるのか。

回答：ニュートラルな立場から、事例の紹介にとどめている。少数派の人たちがいるかもしれないので、その人たちが困らないようにしたい。日々の授業でも「複数の視点」を持てるように話をしているつもりである。

### 7人目：野呂耕一郎 先生

・振り返りは、いつもしているのか。

回答：時間がなくてできないときもあるが、振り返りをする際にいつも話すのは「テスト前に見て

---

助かるものを書きなさい」ということである。自分が分かったこと、気づいたこと、疑問に思っていることなど、テスト前に役立つようなことを書くようにさせている。

※これに対し、その効果を問う質問がなされた。目標を毎時間、プリントの上にかかせており、自分が今日は何をするのか見つけられるようにして、自己評価もさせているとの回答があった。

#### 8人目：泉 広宣 先生

・組み立てで上手だったのは、「法律」という言葉を出して黒板に書いたところで、プリントの裏を見せると、様々な法律がまとめられていたのがよかった。プリントの使い方が、とても上手だった。

※この後で、司会より後半に移ることが伝えられ、感想などを述べてもらうこととなった。

#### 9人目：工藤 裕文 先生

・横文字の言葉が多かったが、教科書に全て掲載されているのか。

回答：教科書にある言葉も、教科書にない言葉も出している。

・生徒同士がグループ活動に慣れていたので、司会がいなくても話し合いが進んでいた。何か指示などしているのか。

回答：初めの頃に、ジャンケンで順番を決めないようにということは伝えた。自分たちで順番を決めるようにさせている。決まらない場合は、出席番号の順番などにするようアシストはしている。

・机間指導はあまりしないのか。

回答：今日は、いつもよりは机間指導をしたつもりである。

・自分もできていないかもしれないが、いい発言があったら、もっと生徒を褒めてあげたらよいと思う。

#### 10人目：戸田 潤子 先生

・グループでの活動になり、机間指導をしている際に、「これは全体で発表してほしいな」という声かけが印象的であった。全体で発表する呼び水となり、発表しやすい雰囲気を作っていたと思う。

回答：「法律を作る」という発言がないと、プリントの裏に行けず授業も展開できないので、自分のために声かけしていた面もある。

#### 11人目：大関 由理 先生

・力みのない、いい意味で力の抜けた、リラックスのできていた授業であった。普段通りの1年F組で、意欲のある生徒も多く、発言も積極的であった。先生の褒め方についても、今日の感じでよいと思った。

・最初は自分の授業があって見られなかったが、授業の最初からグループだったのか、それとも、一斉授業後にグループを作らせたのか、教えてもらいたい。

回答：今日は、最初からグループを作らせた。授業の内容に応じて、一斉授業なのかグループなのか考えている。一斉授業後に、グループを作らせる場合もある。演習の内容次第である。

※これに対し、グループの作り方について質問が出された。無理やり作ることはせず、好きな人同士で自由にグループを作らせ、話しやすいようにしているとの回答があった。

#### 12人目：大菅あずさ 先生

・グループ編成は、自由に作らせていたが、人数が大体4人前後であった。人数に対する先生からの指示はなかったが、その点についてはどうなのか。

回答：多くて4人、まずは4人以内となるようにしている。自分の感覚では3人なのだが、4人以内となるように、以前から授業中に指示していたので、今日は指示を出さなくてもグループを作れていた。

※この後で、司会より最後の1人の発言を求めるも特に発言はなく、加藤教頭先生の総括、2名の指導主事の先生からのご指導へと移った。

#### 〈4〉加藤雅人教頭先生からの総括

- ・先生方、たくさんのご意見、ご質問、ありがとうございました。
- ・アウトプット型の授業で、自分の考えをまとめて、グループの中では発表しやすい環境を作り、全体で発表できるようにしていた。グループに1枚配布された演習プリントで生徒の興味を引き、しっかりと各自に配布されたプリントを活用して自分の考えをまとめ、さらにグループで共有するなど、今先生が目指されていた授業になっていた。
- ・生徒の言葉を使いながら、授業も進められていた。
- ・振り返りも、生徒同士が話し合った上で、再度、自分の意見をまとめさせていたので、よかった。

#### 〈5〉小松隆行 秋田県教育庁高校教育課 指導主事からの指導助言

- ・今先生、お忙しい中、準備をしていただき、ありがとうございました。先生方には、活発に議論していただき、成果、課題、改善点が明確に示された、授業者だけでなく参観された先生方にも実り多い教科会となった。
- ・県立高校では、ここしばらく「組織で取り組む授業改善」を進めている。個々の教員の力量で成り立つ授業から、教科全体や学校全体の授業の質や水準の向上を実現できる仕組みの構築が重要だということで取り組んでいる。そのために、教科会や授業研修会が定期的実施されるようお願いしている。学校の目標に照らし合わせて、自校の生徒に対する授業がどんなものか、どんな授業になるのか、共通理解を図る必要がある。そのためにも、このような教科の壁を越えて、教員同士と一緒に協働して、授業そのものについて共に学びあうことが大切である。そういう意味で、本日の研修は大変に意義があった。
- ・本日の授業について、教頭先生がほとんど話をしてくれたが、2点のことについて話をしたい。
- ・1点目は、本時のねらいと授業の構成についてである。本時の目標として「差別のない社会の実現のために何をすべきか、何が必要かを考え、発表することができる」というものであった。先程の今先生の話にもあったが、アウトプット型の授業ということで、話しやすい形が作られていて、ねらいが果たされた授業であった。それぞれのグループワークも、生徒一人ひとりが参加し、

---

---

協働して課題にあたっていた。

- ・授業の構成についても、最初に知識の確認があり、グループワークに入って、その後、また知識の獲得という形で、学びあいの雰囲気を作って、授業がスムーズに進んでいくという構成であった。そういった意味では、非常に充実した言語活動であったと思う。
- ・さらに、先生が2つの視点を示されたことにより、生徒たちが物を考える入口に立つことができたので、多角的な学びにつながっていったと思う。それが、深い学びにもつながっていくものと考えている。
- ・2点目は、グループワークのあり方についてである。グループで話し合いを行って発表しあう、そして、グループ全体で考えを共有する、その後に全体で発表するというような形になっていた。
- ・グループ学習の効果は、大きく2つある。1つ目は、学習面での効果、成績のアップであったり学習態度がアップするとか、そういった学習面のメリットである。もう1つは社会性の育成という点で、人数の問題があったが、場面や目的に応じて、多かたり少なかりしてもよいのかなと考えている。いずれ、協働的な態度が向上していくということで、そういった意味では、非常に目的の果たされた展開ではなかったかと思う。
- ・ただ単に発表するということを目標にするのではなく、深い学びにつながらないような単純なものではなくて、自分の考えの理由、根拠、プロセスなどを示しながら述べるというような形に徐々に持っていければ、段階的な指導が必要と思うが、そういった形に進んでいけば、なおよかったと思う。
- ・本時の授業では、グループで課題を解決するプロセスが、複数のグループを見たのだが、非常に大事にされていて、そういった意味ではよかったと感じる。
- ・こうしたグループ活動、グループ学習を実施する際には注意することが、いくつかあるのだが、グループワークの目標や話し合いの流れを、きちんと授業者が示す必要がある。具体的な目標や手順をしっかりと伝えながらグループワークをすると、生徒はその目標を意識しながら、より主体的にグループワークに参加するようになる。本時の授業はまさに、そういった形でいうと、お手本のような授業であった。
- ・また、教師の支援も大切かと思う。指導者が話し合いを促したり、よい点を褒めるなど、先程の協議にもあったが、細かなアドバイスをしたことが効果につながる。こうした点についても、今先生の授業はとてもよかったと思う。
- ・蛇足になるが、振り返りについてである。できるだけ、振り返りの時間をとってもらえればよいと思う。最近の子どもたちは、予習だけでなく復習の習慣もなく、やはり、テスト前に一気に一生懸命勉強するのだけれども、断絶してしまっている。よって、授業の終わりに振り返りの時間をとるようにしていけば、復習の第一ステップとなっていくのではないかと思うので、学びの定着につながるような取り組みを意識してもらえればと思う。
- ・今先生、基本的な人権の部分というのは非常にボリュームがあって、この平等権についても、一時間で構成するのは大変だったと思う。今日は、すごくコンパクトにまとめられていて、本当に素晴らしい授業をありがとうございました。お疲れ様でした。今後も魅力ある授業を実践されていきますよう、お願いします。
- ・以上で講評とさせていただきます。

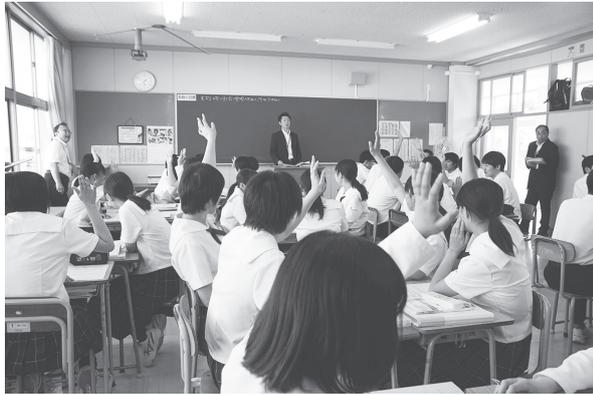
## 〈6〉佐藤貴之 秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事からの指導助言

- ・本日は貴重な授業提示、ありがとうございました。
- ・普段は小中の学校訪問が多く、そちらの視点からという話もあるので、高校にあわない部分もあると思うが、ご容赦いただきたい。
- ・生徒同士の活発なやりとりが見られた。活発にするための先生の手立てとして、先程から出ている先生の細やかな指導があって、先生のちょっとした働きかけがあったから、今日のような生徒の関わりや発表があったと思う。時間的に大変なところもあると思うが、他の人の考えに触れる機会がとても大事だと思う。自分よがり、独りよがりではなく、多様な考えに触れる機会というものを、高校でも多く持たせていきたいと考えている。
- ・今回の話し合いの中で、自分でできること、社会全体でできることということで、先生が視点を2つ提示されていたが、何をすべきかという話し合いの視点として、自分でできることが入っていたのも今日は大変よかったと感じた。本当にちょっとしたことではあるが、社会の出来事と自分の関わりを持たせる、自分事として今日の授業の内容を考えるという手立てとして、大きい視点ではないかと思う。どのような社会であるべきか、自分たちはどうすればよいのかということを考えさせること、高校生にとっては大変に価値のあるものではないかと感じている。
- ・繰り返しとなるが、振り返りの大切さということである。小中学校も、振り返りの場面、時間というものを大事に指導している。考えを深めるための手立てとして、振り返りを取り入れている。交流したり、色々な考えに触れたりした後に、やはり最後は自分に学習を戻してあげる。一人ひとり、最後は個に戻してあげて、この時間、「何を自分が感じたか」「何が分かったか」「どんな気づきがあった」など、最後はやはり自分に戻してあげるということ、小中学校でも大事にしている。学習では、色々な交流をする場面があるのだが、最後は一人ひとりが自分で考えて、自分の言葉で再構成するという振り返りを、今後も大事にしてもらいたいと思う。
- ・授業をさらに工夫できる所はどこかということで話をしたい。先程、話にも出たが、事実や根拠を基にするということになるかと思う。社会科に関しては、事実を基にした学びであったり、話し合いということを大事にしたいと思っている。例えば、今日の授業の中で、先生と生徒のやりとりの中で、「何人に一人」というような部分が何回か出てきた。子どもたちは勢いよく反応するのだが、そこに何か根拠があるのかということである。社会科であれば、何故、その数字になったのかという根拠や理由といった所を、一緒に話し合わせたり交流したりすることで、子どもたちの中での根拠が大事になってくる。
- ・この根拠を基にした話し合いということであると、今日の内容に関しては、差別というかなり大きい、先程、かなり大きいという話をしていたが、身近な男女差別から、子どもたちにとってあまり関わりがないというところもおかしいのだが、アイヌの問題であったり部落差別の問題とか、すごく色々な差別を含んでいるので、今日、子どもたちにもっと追及させて深く話し合わせるとすると、その中の一つの差別に視点を絞った形で話し合いをさせると、もっと色々な意見が出てくるのかなと思う。
- ・小中学校では、先日、学習指導要領の解説ということで、小中学校のものが示された。新聞にも掲載されていたが、小学校6年生の社会科で、これまでは6年生は歴史の学習から始まり、卒業間近に公民の分野が少し入ってくるので、なかなか公民分野を重視できないでいた。今回の解説では、日本国憲法などの公民的分野が一番上に来ている。公民的分野を扱ってから、その後に日本の歴史という感じで変わってきた。小中も含めて、主権者教育というか、自分の社会、日本の

国というあり方を考えるということ、小中学校でも大事にしていくという流れになっている。そういった点からも、今日のような、子どもたちが自分たちの社会のあり方を考えていくきっかけになる授業であったなと感じた。

・本日は、ありがとうございました。

### 〈7〉授業風景、協議会風景



学びの意欲の高い生徒たち



生徒への効果的な働きかけ



全体の場での意見共有



研究協議会の様子

## 指導主事訪問全体協議会

日時：平成29年6月26日(月) 15:45～16:30

場所：会議室

### 1 指導助言 秋田県教育庁高校教育課指導主事 (商業)野呂田義彦 先生

先生方には日頃から大変お世話になっている。色々な高校教育課からの調査等、ご協力いただき、また、本日は参観をさせていただきありがたく思っている。本日授業を参観させていただいたが、先生方の授業に関して、生徒が意欲的・積極的に参加している授業が多く、良い授業をされていると感じた。

お手元の資料「平成28年度 秋田県高等学校学力・学習状況調査より」をご覧いただきたい。おそらく、本校でも分析をされていると思うが改めてご確認いただきたい。

まず、「学校の授業内容をどの程度理解していますか」という質問に対する本校生徒の回答だが、「ほとんどの授業がよく理解できる」・「理解できる授業の方が多い」を合計すると54.4%ということで、県平均よりも1.8ポイント高い。これは、普段からの先生方の丁寧な授業の成果ではないかと思っている。

次に、「普通の授業では、生徒同志で意見交換したり、自分の考えを発表したりする活動をよく行っていると思いますか」という質問に対する本校生徒の回答だが、「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」を合計すると89.9%ということで、県平均よりも6.3ポイント高い。これは、授業改善が進んでいる学校である、先生方の意識も変わってきていると捉えている。

三つ目、「普通の授業では、学習のねらいや目標をしっかりと提示して授業を行っていますか」という質問に対する本校生徒の回答だが、「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」を合計すると91.2%で、県平均よりも3.5ポイント高い。これは、先生方お一人お一人が、分かりやすい授業を目指し、授業改善に取り組んできた大きな成果だと思う。

成果が上がっている一方で、四つ目、「授業の中で、振り返りをする活動をよく行っていると思いますか」という質問に対する本校生徒の肯定的な回答は、県平均を下回っている。

五つ目、「進学したい大学等や就きたい職業等を意識して授業に臨んでいますか」という質問に対する本校生徒の肯定的な回答は、県平均を下回っている。この質問項目は学力テストの結果と、かなりの相関が見られた。進路を意識して授業に臨んでいる生徒の方が、そうでない生徒よりも、学力が高かったという結果が出ている。どうか日々の授業の中でも、将来を意識した「授業の中でのキャリア教育」に取り組んでいただきたい。

六つ目、「平日の家庭学習の時間」を尋ねる項目では、「ほとんどしない」が60%近くあり、県平均を大きく上回っている。家庭学習がすべてではない。おそらく、先生方は休み時間の学習、課題テストの実施等、授業以外で学べる場を工夫されていると思うが、家庭学習も学力向上のために大切なので、授業の中でも工夫していただきたい。

最後に、先程も申し上げたとおり、本校は授業改善が進んでいる学校だと申し上げて、私からの指導助言に代えさせていただきたい。

## 2 総評 秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事 北嶋 力 先生

昨日、一昨日開催された東北大会でのレスリング部・女子剣道部の優勝をはじめ、男子テニス部などの素晴らしい活躍を新聞報道で拝見した。毎年のように多くの運動部ならびに文化部が活躍する背景には、昼夜・休日を問わずご指導に励む先生方の献身的な姿があるからこそとを感じる。頭が下がる思いでいっぱいであるとともに、このようなお忙しい時期の訪問に際して校長先生をはじめ職員の皆様方から、授業研究の準備に加え環境整備など細やかな配慮を頂いたことに感謝申し上げたい。

私からは大きく二つの点についてお話ししたい。1点目が次期学習指導要領における「主体的・対話的な深い学び」と参観した授業について、2点目は秋田市教育委員会からのお願いである。

本校では昨年度産業能率大学の小林先生をお招きしてアクティブラーニング型授業について生徒の主体的な学びを促す研修に積極的に務めておられる。その成果が本日の授業にも色濃く表れていた。研修集録を拝見すると次期学習指導要領のキーワードである主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善について共通理解を図ることができた充実した研修であったことが伺えた。昨年12月21日の中央教育審議会の答申において、子供たちに新しい時代を切り開くための必要な資質・能力を育てていくという観点から、主体的・対話的で深い学びの視点で授業を見直し改善する重要性などが示されている。『初等科教育資料』の5月号や『ビュー21 2017』等から抜粋した内容も含めて、先生方もご存じのこととは思うが、いま一度主な取り組みについてお話させていただきたい。

主体的な学びは、生徒が学びに興味関心をもって向かい、次の学びにつなげることであり、そこには生徒の興味関心が湧くように題材や問いかけを吟味したり、学習に見通しをもたせたり、振り返りをして身についたことを比較させたりすることが求められる。対話的な学びは、他者の考えと交流しながら自身の考えを広げ深める学びであり、これによって知識や技能を定着させるとともに、多面的で深い理解に至る学びであること。深い学びは、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに想像したりする過程で各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる学びを指す。これらの学びは1単位時間、1時間の授業の中で当然すべてが実現されるものでもなく、単元や題材という大きなまとまりの中で振り返る場面をどこに設定するか、グループやペアで対話する場面をどこにもっていくか、学びの深まりを作り出すために生徒が考える場面と、当然教諭が教える場面がどのように単元・題材の中に組み立てられるかなどという視点が実現されることが求められている。

当然、基礎的・基本的な技能の習得にまだまだ課題が見られるという場合は、学びを深める主体性を引き出したりという工夫をしながら、確実に知識技能の習得を図ることが求められるので、その点もご留意いただきたい。

本日の授業を参観して、生徒が自分の課題解決に向けて目を輝かせて熱心に取り組んでいる様子が印象的だった。また、発問に対する生徒の反応が大変に素直であり、教師と生徒のお互いの信頼関係が成り立っているということが伺えた。学習の見通しをもたせるために、本時のねらいがどの授業でも明示されていたし、目的意識や、学ぶ意欲を引き出す次の課題への取り組み指示が、大変明確であったりするなど、主体的に学ぶための工夫が多くなされていた。思考を整理し、理解を深めることができる板書あるいは学習シートの工夫、思考を深めるための問い直し、生徒から出てき

---

た答えがもう少し聞きたいなどという問い直しで、深い学びが展開されており、昨年の研修の成果が生かされた組織で取り組む授業改善が浸透していた。今後も文武両道を目指す生徒の育成と、さらなる学習指導の充実をお願いしたい。

次に秋田市教育委員会からのお願いということで2点お話させていただきたい。

はじめに事故防止についてである。本校は、通学時に自転車を使用している生徒もたくさんいる。軽車両を運転するものとして道路交通法を遵守し、加害者にも被害者にもならないよう具体的な例を示すなどして未然防止に努めるようご指導をお願いしたい。

次に、いじめへの対応についてである。本市では、本年4月に「秋田市いじめ基本方針」を改訂したところである。改訂にあたっては「秋田市いじめ対策委員会」の検証に基づき、全職員が協力し、より実効的にいじめ防止の取組を推進できるよう留意事項等を見直した。具体的には、いじめの認知にあたって、生徒がふざけあったりしているように見えるような場面であっても、場合によっては生徒が感じる被害性に着目し、事実確認を行うかどうか大切であること、いじめに関わるような情報が寄せられたときは、他の業務に優先し、かつ即日、情報を速やかに「いじめ対策委員会」に報告することなどを新たに追加している。

いじめを受けた生徒はもちろんのこと、保護者・家族の悲しみ苦しさに思いをいたらせたとき、いじめへの対応は学校にとって最優先に取り組むべきことになるはずだ。被害者によりそった対応について組織的に取り組んで下さるようお願いしたい。

最後に、本年10月に開催される「全国産業教育フェア秋田大会」では、県内唯一の商業専門高校として、これまで積み重ねてきた「AKI SHOP」や「キッズビジネスタウン」などのビジネス実践の取組を全国に発信するまたとない機会であり、生徒実行委員長の安保さんをはじめ、生徒一人ひとりが主役となって活躍する充実した大会となるよう、万全の準備と大会へのご協力を何卒よろしくをお願いしたい。

本日は教え子たちの元気な姿も見ることができた。立派に成長した様子を拝見し、改めて先生方の手厚いご指導に感謝申し上げます。本日はありがとうございました。

## 第1回校内職員研修

# 「発達障害等により特別支援が必要な生徒への対応について」

講師：(有)心理教育相談室クローバー 代表取締役  
本校スクールカウンセラー  
臨床心理士 石山宏央氏

## 1 実施日時・場所

平成29年6月19日（月）15：50～16：50（場所：会議室）

## 2 講演会

### ①発達障害とは

発達障害とは最近使われ始めた言葉である。ADHDという言葉も昔はなく、微細脳損傷と言われていた。その後、診断基準が少し変わり、発達障害や自閉症スペクトラムと呼ばれるようになった。発達障害というのは、そもそも脳の機能障害により様々な特性が表れるものであり、知的障害はない。脳のバランスが悪いため、みんなと同じようなことができなかつたり、みんなと同じように理解できなかつたりする。人によっては二次障害で精神障害を持つ可能性もある。

### ②発達障害の種類と特徴

#### ○広汎性発達障害（高機能自閉症、アスペルガー）

##### ・社会性の獲得や対人関係の難しさ

他の人と相互にやりとりすることが苦手であり、人とのつきあい方のルールや社会の常識がわかりにくいという特徴がある。一人でいることを好む子どももいれば、一生懸命友達を作ろうとするが、一方的で嫌がられてしまう子どももいる。

##### ・コミュニケーションの特徴

言葉でのやりとりと、身振りや視線などを使う言葉以外でのやりとりが全般的に苦手である。

##### ・想像力の特徴

想像力がうまく働かないことがあり、気持ちを切り替えたり、融通を利かせたりすることがうまくできない。いつも通りが安心なため、初めての場所に行きたがらなかつたり、日課や予定の変更を嫌がったりする。また、興味に偏りが見られ、不自然なほど同じ遊びを繰り返したり、極端なコレクションをしたりすることがある。

##### ・体の感覚の特徴

五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）に代表される様々な感覚に偏りを持つ子どもがいる。

また、動作がぎこちなかつたり、手先が不器用な子どもがいる。

#### ○トゥレット症候群

音声チックと運動性チック（目をパチパチさせるなど）を併せもった症状。

#### ○LD（学習障害）

知能に問題はないが、読み、書き、計算など苦手な分野がある。ADHDに合併している確率は非常に高く、80パーセントほどと言われている。ディスレクシアや光の刺激により、ものが見えなくなる人もおり、入試のときには配慮が必要となってくる。



## ○ADHD（注意欠陥多動性障害）

落ち着きがない、（授業中立ち歩いたり、周りの人にちょっかいを出す、など）忘れ物が多い、などの特徴がある。クラスに5～6人程度はいるのではないかとされている。タブレットの使用が脳に悪影響を与えているのではないかと、アメリカの研究で言われており、破壊的行動（反抗調整性障害）を併せ持つ人もいる。ADHDの子どもがうまく適応できないと、反抗的な行動や破壊的な行動をとってしまう危険性がある。行動の特徴としては、一人遊びに熱中したり、話しかけても反応しない、友達の中にうまく入っていけない、などがある。相手の言葉を繰り返したり、話し方が独特であることも特徴である。

### ③対処法（どのように接すればよいのか）

状況がわからないことが多く、状況がわかれば適切に行動できる可能性が高い。また、変化が苦手、あらかじめいつもと違うことがわかれば安心できる。

さらに、耳で聞いて理解することを不得意とするので、視覚に訴えるようにする。

情報量が多いと混乱することが多いので、余計な刺激を減らせば安心することができる。以上の特徴から、子どもが安心できる環境を整えることが大事である。

#### ○子どもが安心できる環境

##### ・見通しの立つ環境

毎日の日課をなるべく一定にして見通しが立つように配慮する。初めての経験や予定の変更がある場合、言葉で説明するだけでは十分に理解できないことがあるので、「いつ」「どこで」「何を」「いつまで」「どのようなやり方で」するのか、「終わったら次に何をするのか」をはっきり伝える。

##### ・嫌がることは無理強いしない

教師サイドがプッシュしすぎると爆発してしまう可能性があり、さじ加減が難しいところなので、どこまでであればやらせてもよいことなのか、主治医から事前に指示を仰ぐ必要がある。

#### ○子どもが安心できる空間

保健室や別室の使用を認める。通院している生徒には、保護者を通じて、主治医と連携することも大事である。

「死にたい」、「消えたい」などの言葉を発したときには、保護者へ報告し、精神状態が落ち着いてからの登校を促す。

### ④演習

#### ○ウォームアップ

##### Q1) 「お風呂見てきて」と言われたらどのような行動をとるか？

— 水量や湯加減を見る。しかし、発達障害をもつ子どもは、浴槽をながめて戻ってくるなど、こじらぎが意図したことと全く違う行動をとってしまう。そのため、より具体的な指示を与えなければならない。

##### Q2) 廊下を走っている子にどのように注意するか。

— 「廊下は歩きます。」禁止指示を出すと、自己肯定感が下がって言うので、「廊下は走ってははいけません。」など否定的なことは言わないようにする。

#### ○演習 4人グループになり、与えられたテーマに対しどのような対応をするか、考えてください。

##### 演習1) 授業中、立ち歩く生徒に対しどのように関わっていくか？

— 実際に体を寄せていって、「座ります」と誘導していく。「立ち歩いてはいけません。」と否定してはいけない。

##### 演習2) 先走って次から次へと答えを言おうとする生徒にどのように対応するか？

— 生徒の発言を流すのではなく、一度止めなければならない。「良い意見だね。また次にあてる

から考えておいてね。」などの声かけをする。



○教師が心がけること

- ・感情にブレーキをかけることが難しいことを理解する。
- ・否定をしない。
- ・不適切な行動に関しては、学級で指導するのではなく、場所を変えてきちんと指導しなければならない。

### ⑤質疑応答

大久保先生：自信を持たせつつ、周囲と協調しながら心の成長を促すにはどのような声かけをすれば良いか？

石山先生：教師サイドが諭すということも一つの方法ではあるが、自分で考え、自己決定させるようにする。「あなたはどう思っているの?」「あなたはどうしたいの?」など。そうすることにより、自分の言動は自己責任であるということを学ばせてほしい。

大久保先生：周りの生徒と発達障害をもつ生徒を障害をあらわにせず、うまく関わらせるにはどうしたら良いか？

石山先生：地道にコツコツと修正していかなければならない。振り返りノートの使用など、トレーニングの要素が必要である。周りの生徒はだんだん発達障害の生徒の特徴をつかんでいき、うまく関わるようになっていく。なかなかうまくいかない場合は教員によるサポートが必要である。

大関先生：授業中に生徒同士で口論になってしまった場合はどうすれば良いか？

石山先生：本人を別室に連れ出し、クールダウンさせる。あらゆる事例に対しての学校での対応の仕方を事前に保護者へ連絡し、許可をとっておく。声をかけやすい、授業から離れてしまった場合、戻しやすい、との理由から座席は前に設定する。また、講史的な授業は苦痛に感じる人が多いので、活動を取り入れた授業展開を考えてほしい。

伸友先生：相手の気持ちを理解することは、難しいものなのか？

石山先生：難しい。漫画の吹き出しなどを使って、理解させることが良いのではないか。

伸友先生：このような生徒はきちんと社会に適応できるものか？

石山先生：研究職には適正はあるが、周りとの協調しながら仕事をしていくことは難しい。

木村先生：修学旅行はどうすれば良いか？

石山先生：修学旅行には参加するが、目を離すことはできない。事前に主治医の許可と注意事項を確認しておくこと。薬があれば薬を服用させるなど、約束事をきちんと守らせる。

大関先生：主治医と学校が直接連絡を取り合うことは可能か？

石山先生：病院によっては可能であるが、個人情報に関係しているので難しいケースが多い。そのため、保護者を介して病院と連絡を取り合うことが望ましい。



## 第2回校内職員研修

# 「学校を巡る近年の状況の変化と これからの教員に求められる資質能力について」

講師：秋田大学大学院教育学研究科 教職実践専攻  
准教授 田 仲 誠 祐 氏

## 1 実施日時・場所

平成30年1月15日（月）15：00～16：00（場所：語学室）

## 2 講演会

平成29年度教員免許状更新講習(選択必修)の際の資料をもとにお話ししたい。

私が教員になった昭和57年には「臨時教育審議会」というものがあり、あの時は「多様性と変化」というキーワードがあって、これからは変化の時代だ、ということが言われた。ものすごい変化がこの30数年間で起きているが、その変化に増してこれからの変化はさらに進んでくるということを、このデータで読んでいただきたい。社会が変わってきているので、教育も変わってくるが、それがどういう方向で変わってくるかということをお話したい。

とにかくものすごく社会が変化してきている。私が教師をしてきた中でも急激に変化してきており、これからはもっと大変であろうという思いを持っているが、これからどう変わっていくのかというところを、ここで共有できればと思っている。

平成27年12月に出された中教審の答申による教育改革の三つの動き、これがかなり大事で、これからの動きを方向づけており、学校の在り方自体を変えていくものになる。

一つは「学校と地域の連携・協働」ということ。私が教員になったころは、学校というのは社会から切り離された特殊な空間であった。そのような場所で子供を学ばせるというところで学校があったというふうに思う。ところが、「地域との連携・協働」というところで、学校の在り方が変わってきている。特に学習指導要領の改定では「社会に開かれた教育課程」というのがキーワード。私が数学の教員をしていれば数学をやっていただければいいかなと思っていた30何年前とはかなり違う。「社会に開かれた教育課程」というのが次のキーワード。「アクティブラーニング」「カリキュラムマネジメント」という言葉も出てきたが、その中でも「社会に開かれた教育課程」という位置づけがどんどん強くなっていく。

二つ目は「地域との連携・協働」のあと、「チームとしての学校」。学校のスタッフは、今までは教員、事務職などがチームであったが、これからのチームは教員以外の、いままでに学校にいなかった人がチームとしてやっていくことになる。いろんな人がチームとしてやっていかないと、これからの「キャリア教育」や「いじめ」にも対応できない。チームとしての学校の在り方が提言されている。

三つ目は、「教師の資質・能力」というのも今までは違った形で提言されている。特に「学び続ける教師像」「マネジメント」という概念も出てきた。キャリア段階においてどういう研修が必要かを踏まえながらキャリア形成していくことが求められる。これからの教員の資質能力、これも県教委の方では指標を作って、どの段階でどのようなことをクリアできる教員にならなければなら

ないか、じきに発表されることになる。そして、どういうふうな研修体系にしていくかも、これから練り直していくことになる。

地域と共にある学校とうことで、これからすべての公立学校は「コミュニティースクール」に移行するべきというようなことがある。「地域・学校協働本部」という言葉も今までにない言葉だ。そこで「コーディネーター」、これも地域、学校に関わってくるが、もっと地域と一体化するような、地域と共にある学校になっていくような方向を生み出す。「チーム学校」としては、社会に開かれた教育課程を実現するために、教員だけではなくて、いろんな人がこの「チーム学校」のスタッフとして加わってくる学校構造になる。

そして教員については、今までも研修はあったが、これを大学の養成、採用段階から、キャリア発達を目指したどういう資質能力を身につけておかなければいけないかということを見通しながら研修等を進めていくという、大きな研修大系の見直しを進めていくことになる。これが平成27年12月に出た答申、あれからもう2年経っているが、それが今いろんな形で出ている。まだまだ形になっていない部分もあるが。例えば中学校の部活動指導員。教員の多忙化もあり、答申は出ているが、これからどうするかというところ。その実現に向けて、この三つの答申が動いてくる。学習指導要領は、社会の変化というのは大きいので、この社会の変化をきちんと踏まえた形でやっていく必要がある。

では、本論に入りたいと思う。

まず、数字について。数字は客観的にものを議論する事ができるが、判断するのは我々人間である。例えば、大学を中途退学する割合は2.65パーセント。この数字を多いと見るか少ないと見るかは我々の判断になるが、このダイヤモンド社が出した雑誌では、そこを多いとみている。そこをどういうふうにみるかという、学力水準のミスマッチが中途退学の一因になっている。学ぶための



学力を持ち合わせていなかったというように言っている。これを私がデータを見てみたら、こんなデータが見つかった。実際に学力が低いからやめる学生がどれぐらいいるかという、14.5パーセント。そうすると、学力をきちんと測れる入試制度が必要だということになる。もっと多い20.4パーセントは何かという、経済的理由である。今、貧困問題について国も対策をとっているが、この数字から貧困問題を感じ取ることもできる。13.4パーセントが大学をやめて就職をしたこと、15.4パーセントが別の大学へ転学したことを表している。そういったところから、「キャリア教育」というものをもう少し考えていく必要があると読み取ることもできる。このように、数字からいろいろなことを読み取れるので、今日はデータの数字から、今どういう変化や問題があるのかを見ていきたい。

まず、社会の変化について。私が教員になったのは昭和57年。教員をやっている間は、人口があまり変化せずに推移していた。ところがこれからは人口が急激に減少する。どのように減少するかという、2065年には3割減少する。これからはものすごい勢いで人口減少するという日本の社会がこれから待っている。当然高齢化ものすごい勢いで訪れる。分布も、ピラミッド型から釣り鐘型、壺型になってくる。そこで何が大変かという、生産年齢人口が減少するという。2060年、

---

今から40年後には半分になる。だからこの社会の変化に教育は対応していかなければならない。

また、日本は経済大国だと思っていたが、日本は経済大国ではなくなっていくという危機感がある。中国に抜かれてGDP 3位というのは認識していたが、1人あたりのGDPはどうなっているのか。日本は優秀で、1人あたりのGDP、生産性はかなり高いと私は思っていたが、2012年には世界10位。2016年には22位ということで、1人あたりのGDPは国際的には高い方ではない。

就職率についても、これから働く人が減少する中でどうなるかという、昔は高校を卒業すると就職するという人が多かったが、今は高校を卒業して就職するという人は15.8パーセントと少ない。秋田県の場合は、高校を出て就職する人は3割くらいいるようだが、日本全体では少ない状況だ。生産年齢人口が少なくなるのと、働く期間が短くなってきていること、そして失業率と非正規雇用も問題だ。若年層は、遅く働いて非正規雇用が多く、失業率が高いという状況だ。フリーターも多く、ずっと60万人超で推移している。これから若い人の労働のウェイトが高くなっていくが、なかなか働かない若い人が多いという状況もある。

新規学卒就職者の3年以内の離職率の推移のグラフを見ると、中卒は7割ぐらい、高卒は5割ぐらい、大卒も3割ぐらいがやめてしまうという状況があり、キャリア教育の充実の必要性がこのようなところに表れている。

家庭を巡る状況については、核家族が増加しており、単独家庭がそれ以上に増えてきている。私が教員になったところと一番違うのは、当時は父親が外で働き、母親は家にいたという家庭が圧倒的に多く、共働きはそんなに多くなかったが、途中で逆転して、もう今は共働きが当たり前になってきている。これも社会の大きな変化である。また、母子家庭・父子家庭の推移という点からみると、母子家庭がどんどん増えてきているという状況もある。生活保護率年次の推移をみると、日本は豊かだと思っていたが、そうではない、生活保護の率が増加してきており、昭和40年の頃と同じぐらいの割合になってきている。生活保護率がこんなに高いのだということも驚くようなデータである。生活保護率が高いと、要保護、準要保護が増える。

それから、児童虐待の数がすごい勢いで増えてきている。おそらく、児童虐待が増えてきているというのは、法律ができて、通報しなければいけないというのが厳しくなっていて、今までやってきていたことも児童虐待としてカウントされるようになってきているということ。体罰も同じく、今急に増えてきたのではなく、むしろ昔のほうが多かったのかもしれないが、今はすこしでもあると体罰ということになる。この児童虐待も、昔は当たり前にあったことが、今は児童虐待ということになってしまうので、増えてきている。経済的にも、児童虐待とい点においても大変な時代。小学校では、これを認識した時に、どう対応するかということは非常に難しい問題になっている。

児童生徒数の推移を見てみても、子供の数がどんどん減少してきている。昭和30年代の初めは第一次ベビーブーム、この世代の子供が親になった時に第二次ベビーブームが来た。この人たちがまた親になれば第三次ベビーブームになると思われたが、それは起きなかった。単純に人口は減少していくという時代だ。秋田県はそれ以上に激しく減少している。ここ10年間だけでも、小学校では15000人減少している。学校数もかなりの数が当然減少してくる。私は県教委にいたことがあるが、当時小学校は300校ぐらい、中学校は133校あったが、小学校は3分の1ぐらい減少しており、学校がなくなると地域も崩壊する、そのコミュニティもだんだん人が住まなくなってきた、学校と地域のつながりというのが目に見えて噴出してくる。高校が一番減少しないと思っていたが、58校あった高校がこの10年間で7校なくなってしまった。社会の変化に対して学校はあまり変わらないということはあるが、ものすごい勢いで学校も変わってきている。

教員数も当然減少するが、子供の数に比べて教員数は減少していない。これはなぜかというと、教員数は簡単に減らせない、採用している人をやめさせるわけにはいかない。小学校ではTTなどのいろいろな形で、定数よりも多くの人を今は雇うようにしている。教員数は減少はしているが、子供の数に比べてはそんなに減少しなくてきている。ただ現実には、その副作用として、教員をほとんど採用しないできているという状況で、若い先生がいない。



一学級当たりの児童生徒数は、日本は多いというのはよく言われている。一学級に30何人、40人いるというのはやはり多い。ただ、教員一人当たりの数となると、そんなに多いわけではなく、国際平均ぐらいである。

年齢別教員数については、50代に教員数が最も多く、若い教員がいない。生産人口年齢が64歳までということ、教員も64歳まで働く時代になるので、教員を続けていただいて、若い人の採用を抑えるという時代はもう少し続く。現実採用を調べたところ、来年あたりから小学校の先生方は採用が増えてくる。100人以上募集できる感じがあるようだ。高校は、まだしばらく採用はできないという状況が続くようなので、部活動の指導にしても若い人がほしいかもしれないが、ちょっとこの状況はなかなか改善しない。秋田県は教員の平均年齢が50歳くらい。小学校は特に50代が多いので、これから退職する人も増えるので、採用もできるということになるが、なかなか厳しい状況にある。

子供の学力は、ひところ学力低下論が言われたが、国際的にみると日本の子供たちは悪くない。しかも問題を指摘されてからは改善してきており、だいぶ点数的にも高くなってきている。ただ日本の子供たちの問題点は、成績は良いが、自己肯定感や社会参画に関する項目が低いということ。自分はだめな人間だとか思うような傾向が強い。それから、社会のために何かしようというような子供が外国に比べて少ない。

学校が抱える課題について。不登校はどんどん増えており、平成5年と平成27年のデータの比較では、かなりの数が増えてきている。引きこもりや、社会に出てからも働けないということもあったが、学校でもまだまだ不登校は増えてきている。

また、暴力行為については、私が昭和57年に教員になった時には荒れた時代であった。私は昭和40年代に小学生や中学生だったが、その頃は学校というところはすごく落ち着いていて立派なところだった。こういうところで働きたいと思って教員になった。昭和57年に教員になって、学校に行って教壇に立って、最初に「なんだこれは」と思った。男子の制服は短い学生服に太いズボン、女子生徒はやはり短いセーラー服に引きずるような長いスカート、髪型もリーゼントのよう。アメ、ガム、たばこ、のようなこともあった。学校はこんなにも変わったのかとすごいショックを受けて、初任の年を過ごし、一生この仕事でやっていけるのかと思いながらスタートした。今、秋田県はすごく立派になって、どの学校に行ってもきちんとしている。変な生徒がいる学校はまずない。成績もいい。そういう状況にあって、学校は落ち着いているのかと思うと、全国的には暴力行為は増えている。秋田県は少ないが、平成5年というひどい時代だったが、当時よりも平成27年のほうが増えている。

---

日本語指導が必要な外国人児童生徒数がものすごく増えてきている。それから、特別支援、これがものすごく増えている。特別支援を要する児童への対応というのが、中学校だとこの20年間で23.5倍。特別支援学級に在籍する子供たちが2倍。また、要保護、準要保護の児童生徒も増えている。私が教員になった時も、教育は大変変化していると思っていたが、教員になってからもものすごく変化が起きている。

このように社会も学校も変わってきた。当然教育が、昔は社会と切り離してどのような子供を育てるかを考えていたが、そうではない時代になってきていて、先ほどの答申とか社会に開かれた教育課程というふうな流れになってきている。

ここで、「いじめ」について触れたい。いじめに関しては「いじめ対策推進法」という法律ができた。私が教員をしていた最後のほうにこの法律ができたが、これができるまでは、きちんと指導して結果オーライでいだろうと思っていた。ところが今は、結果オーライだけでは許されないところがあって、法律に定められたことをやっているか、やっていないかで、違法行為になってしまう。それをやっていなければ国家賠償法で請求されることになってしまう。これをしなければならぬと定められたことについてはきちんとやらなければならない時代になっている。これをしっかり理解しておく必要がある。

昨年、全県指導主事会議を見に行ったが、文部科学省の役人が来て、いじめをどうとらえるかということについて指導主事に質問をした。これがいじめかどうかという判断がまず必要だ。保護者から「うちの子供がいじめを受けました」という連絡がきた。「どうしたんですか」と聞いたら、「たたかれたんですよ」という。「誰にたたかれたんですか」と聞くと、仲のよさそうな小さい子にたたかれたという。「それは今までずっとたたかれたりしたんですか」と聞くと、「いえ、昨日だけです」という。「医者へ行ききましたか」と聞くと、「医者には行っていません」と行ったそうです。保護者からこういう連絡があったが、これはいじめかどうか。というのを文部科学省の役人が指導主事に聞いた。事実は「たたかれた」、それがずっと何回もやられていたかということ、昨日一回だけだ。けがをしたかということ、けがをしていない。医者にも行ってない。相手の子供はいじめっ子かということ、普段からマークしていたようないじめっ子でもない。これがいじめかどうかということ。

なぜいじめが出てきたかということ、大津の事件があった。この事件を振り返ってみると、平成23年、複数の生徒が体育館で、体を縛って粘着テープで口をふさぐという行為をした。それから被害者宅を訪れて、金属や財布を盗んだ。自殺をほのめかすメールを送ったが相手にしなかった。それで、自殺した。自殺した後の加害者は、生徒の顔写真に穴をあけたりした。学校はいじめを受けて、自殺後に委員会を開いたが、担任も含めてだれもいじめに気付いていなかった、知らなかったと主張していた。そのあと報道機関とかがいろいろと聞いていったら、いじめを認めた。当初は喧嘩だと認識していた。最初は家庭環境が問題だと説明していた。この大津の事件の場合は免れようもなく「いじめ」だ。複数の生徒が関わっていて、しかも貴金属を盗んだり、顔写真に穴をあけたりしている。学校の対応も明らかに悪い。これをきっかけに「いじめ対策推進法」ができたが、いじめの定義が変わってきており、これを踏まえておく必要がある。

昭和61年からの定義では、「自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。」そして、この問題は、学校としてその事実を認識しているものということで、いじめというのは、学校がまず「いじめだ」と認識することが大事

なこと。いじめとは、学校がどう判断するかということが大きかった。これはやはり、あまり良くない定義だと思う。平成6年から、少し定義が変わった。このときには「個々の行為がいじめに当たるか否かの判断を表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。」とあり、これでしばらく動いてきた。

ところが、平成18年に定義がもう一回変わった。いじめの問題が社会的に取り上げられるようになってきて、定義が変わってきた。ここで変わってきたのは、「弱い者に対して一方的に」という解釈がなくなった。強いものが弱い者に対して、というようなものでなくても、同等の関係でもいじめになる。「継続的に」というのもカットされた。何回もやられればいじめという考えが私たちにはあるが、継続しなくても、一回でもいじめととらえる必要がある。もう一つは、「深刻な苦痛」とあったが、深刻でなくてもいじめととらえる必要が出てきた。だから先ほどの事例については、いじめととらえる必要が出てきたということ。「あなたの学校で、これはいじめでしたか」と聞かれて、「これはいじめではなかったです」と言うと、とらえ方がおかしいということになる。スタートのところで、「これはいじめではない」ということにすると、何もしないでしまう。ここを間違ってしまうと、後々大変なことになってしまう。一応いじめとして把握して対応しなければいけない。

「いじめの認知件数の推移」のデータを見ると、平成6年の時点で認知件数が少し増えている。18年で、また定義が変わって、ここでまた増えた。いじめというものをもっと広くとらえるということ。そして平成25年に「いじめ防止対策推進法」ができ、ここでもっと厳しく国でも調査するようになり、さらにまたいじめの認知件数が増えた。国がいじめとして報告させるのは、かなり対象を広げてきている。そして例えば、いじめの認知についての都道府県からの報告があるが、秋田県は1000人当たり28.4という数字が出ている。これは全国的にみると高いほうではない。高くないからいいかと思うと、例えば福島県は9.9とそれより低い。これを文科省がどういうふうにとらえるかということ、「これは、よくない」。いじめをいじめとしてとらえていないのではないかと福島県をとらえている。京都府は96.8で、京都けしからんということになりそうだが、文科省はこの数字を、小さなものまでもいじめと把握して対応していると評価している。いじめでない、と思うとそこでスタートが止まってしまうが、一応これはいじめとしてとらえて解決していくということを求めている。「いじめ防止対策推進法」では、「心理的・物理的な影響を与える行為」と表現が変わってきているが、ここで意図されているのが、インターネットを通じて行われるようなものも「いじめ」として出てきている。

「いじめ」についてのポイントは、「児童等は、いじめを行ってはならない」、これは法律で定められたが、いじめというのは、犯罪に近いようなものから、今言ったようなものまで、いろいろないじめがあるので、法律に触れる部分と触れない部分がある。また、「学校及び学校の教職員の責務」というのがあって、教職員の責務が明確に示されている。だから、結果としていじめを解決するというのは大事だが、これに定められたプロセスをきちんとやっていないということが、責任を果たしていないということになるので、法律をきちんと理解したうえで、定められたことはきちんと踏まえておく必要がある。



例えば、国は、いじめ防止のための基本的な方針を作らなければならない。国と学校は「策定の義務」なので作らなければならない。いじめ防止のための基本方針、これを学校は作っておかなければいけない。作ってなければ、学校は法令違反をしていることになる。地方公共団体は「策定の努力義務」なので、作らなければ作らなくてもいいが、秋田県は防止条例も基本方針も作っている。こちらの学校は秋田市立なので、秋田市も基本方針は作っている。学校はこれを作っておかなければならず、それに則った対応をしなければ、責任を問われるということになる。だから、いじめ防止の基本方針を作っているだけではなく、その方針に則った対応をしていたかどうか、もし万が一、自殺など何かあった時には、その方針に則った対応をしていたかどうかが重要なポイントになる。そして、「いじめ防止対策連絡協議会を置くことができる」ということになっているが、秋田県はこれを条例で作っている。調査する審議会も作った。このように、やらなければならないことを、自治体のほうでは揃えてきている。「施策」のところでは、特に「早期発見のための措置」ということで、定期的にアンケートを行うとか、いじめが比較的小さいうちに把握するようなことをきちんとやっているかどうか。そして、相談体制をきちんと作るということもやられている。条例に、「県教育委員会及び県立学校は、研修の実施、資質の向上に必要な措置を計画的に行わなければならない。」とあるように、いじめに対して共通理解を図るこの研修会のようなことをやらなければならないということになっている。

また、いじめ防止等に関する特に大事なところで、組織を作るということ、「学校は、いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、複数の教職員、心理、福祉の関係者により構成される組織を置くこと」とあり、いじめ防止対策のための組織が学校にきちんとあるか、何かあった時に組織的に対応できるかどうか、組織があるかどうか、これも決められている。そして、いじめが起こった時の対応の仕方も定められている。まず、



通報があった場合には事実確認をきちんと行う。判断基準は先ほどの定義の通り。そしてそれを設置者に報告しなければならない。一番大事なのは、いじめを受けた児童生徒に対する支援がきちんと行われているか。初めに、いじめがあったことを認めてやらないと、学校はわかってくれない、と何も話さなくなってしまう。まずその支援をきちんと行ったかどうか。それから、行ったとする生徒に対する指導、または保護者に対する助言、法律的にかなり重要なものは警察との連携がきちんと行われていたか、というようなことも定められているので、きちんとこれをする。懲戒や出席停止というのも手立てとしてきちんと定めてあるので、必要であればこれをやらなければならない。

そして特に大きな問題に「重大事態への対処」がある。重大事態とは何かというと、一つは「生命、心身又は財産」等の重大事態。そして、「長期欠席」も重大事態である。これについては、重大事態として設置者に報告しないといけない。私は附属中学校にいたが、附属中学校では、いじめがきっかけと思われて欠席が30日を超えると、文部大臣に報告しなければならないので、非常に緊張感があった。このように、二つの重大事態についてきちんと調査を行って、それを報告する。その報告を受けたら、市教委のほうでもさらにその重大性から再調査を行ったりするということが定められている。これを間違えてしまって、重大事態が自殺等になってしまうと、大変なことになる。これについては、市も共通理解している。

---

重大事態には、直接型と間接型がある。直接型は見えるのですぐわかる。間接型は厄介だが、間接型の判断の根拠は、「あれなくばこれなし」の関係によって人間関係を判断する。あれがなければ休まなかったのだ、あれがあったから休んだのだと、そのあたりの因果関係はあると思っていかなければならない。もう一つは、専門家の所見を踏まえることで、学校の組織はこういう時には専門家も含めた組織を作っておかないと困ったことになるということ。自殺等の場合には、この四つが考えられる。生命被害、殺してしまったというのは直接型、自殺は間接型。身体的被害。財産被害。精神被害、これは厄介だ。不登校はどこで判断するかというと、年間30日を目安にして判断しなければならないが、それともいえないという場合もあり、専門家の判断でやっていくしかない。

いずれ、いじめについては法律があるので、法律ができるまでは何とか解決ということだったが、法律ができてからは決められた組織があったか、そういう対応をしたかということが問われることになる。いじめ防止基本方針はすべての都道府県が作っている。協議会については、秋田県は設置済みだが、まだ設けていないところもある。重大事態の調査の機関は、秋田県は設置済み。このような形で、県などでは一生懸命やっているが、学校もこれを踏まえて対応していくということが必要。

これからは社会と共にある学校にシフトしていく、学校は特別なところではなくて、地域と協働するところであるということだ。特に、コミュニティースクールというと、アメリカのコミュニティースクールはその委員が人事にまで口を出すのが、日本の場合はすべての公立学校がコミュニティースクールを目指すべきということを提言している。秋田県では、六郷高校が先進的に入っているが、コミュニティースクールという方向をだんだん考えていく、小中学校のほうが早いだろうが、ただ人事とかには関わらないというような日本型のコミュニティースクールだと思う。

「地域学校協働本部」というようなところで、学校と地域との連携をもっと活性化していく。それを扱う教員も置くし、地域にもコーディネーターを置く。

「チームとしての学校」というところでは、学校長のマネジメント体制の強化というのがあるが、まず大きいのは、専門性に基づくチーム体制を作ること。学校の中に、心理・福祉の専門家も置く。学校司書、部活動指導員など、学校の教員だけでなく地域連携担当の職員とか、いろいろな人でチームでこれから学校を作っていくということになる。それから、マネジメント体制の強化ということで、主幹教員とか研修プログラム、教職大学院というのもこれから「学び続ける教師」ということで位置づけていこうとしている。

それから、評価、環境整備、教師の多忙化をどうしていくかという流れになっている。教員の資質能力というところでは、これから県教委から出てくると思う。

このような流れがあって、大きいデータから見た変化を受けて、私がこれまで40年で見ただけの変化というのはものすごく大きかったが、これからの20年、40年もものすごい変化になると思うが、ものすごく学校が変わってくると思う。私ももう少し教育に携わるが、これからの10年でも、これまでの40年ぐらいの変化はあると思うので、先を読みながら、秋田商業高校は先頭を行く学校だと思うので、どうかこれからよろしくリードしていただければと思う。

## 勝平地区 小・中・高・特別支援学校連携協議会 参加報告

研 修 部

### ◎学校間連携のねらい

勝平小学校・勝平中学校・秋田商業高校・秋田きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで、長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着、生活習慣の形成に努める。

1 と き 平成29年5月10日（水）

2 ところ 秋田市立勝平中学校

### 3 日 程

授業参観 13：35～14：25

連携協議会 14：45～16：00

(1)全体会 14：45～15：00

①勝平中学校長あいさつ

②今年度の学校間連携について

(2)分科会（各部会・プロジェクトの協議）15：05～15：35

(3)全体会 15：45～16：00

①各部会からの報告

②勝平小学校長あいさつ

4 参加校 勝平小学校・勝平中学校・秋田きらり支援学校・秋田商業高等学校

### 5 本校からの参加者

英語1・数学1・国語3・理科1・地歴公民1・家庭1・商業1 計9名

### 6 中・高連携部会で話し合われたこと

1) 勝平中2年生 商業科目授業体験について（勝平中学校側からの要望）

- ・今年もパソコンを使った授業をしてほしい。
- ・習熟度別で。
- ・できれば、ビジュアル系で。作品制作などがあったら、お土産に持ち帰りたい。

2) 今年度事業について

①11月9日 勝平中学校指導主事計画訪問時の授業参観及び、各教科協議会参加

②2月14日 勝平中2年生 商業科目授業体験

## 7 授業参観した先生方から

### 1) 授業内容について (参考になったこと)

- ・ 中学で、どの程度の古典知識を学ぶのかを知ることができ、高校での導入の仕方をどのようにした方が良いのかを考えるきっかけになった。
- ・ (国・英・社) 学年に応じた授業の展開の仕方。(国) 古文の音読の徹底。
- ・ 1年英語におけるALL Englishの授業。3年社会において、同じ単元を二つのクラスで行っていたが、一方は講義型、一方はグループ学習と、タイプの違う授業を参観できた。
- ・ プリントの扱い。(すぐノートに貼るなど)
- ・ 清掃の手順を具体的に示し、励ましながら意欲を向上させる工夫をしていた。我々のクラス経営や授業にも参考になる部分がたくさんあると思った。
- ・ 板書(生徒の意見の貼り付け方法)。冒頭のビデオ使用。

### 2) 授業参観した感想

- ・ 特に、2・3年生の授業を参観して、中学校の現状を知ることができた。
- ・ 年に一度は中学校の授業を参観して、意見交換をする機会があった方が良くと思う。
- ・ 小・中・高・特支の地域での連携を大切にするということだと思いが、今ひとつ明確な目的がつかめない感があった。小中連携と中高連携は意味合いがかなり違うように思う。
- ・ 日頃接することの少ない中学校の授業を参観し、大いに刺激を受けた。
- ・ 中学校では、活用型授業を積極的に行っており、高校教師にとって大変参考になると思う。多くの高校教師に中学校の授業参観をして欲しい。
- ・ 化学分野と生物分野の理科の授業を中心に参観させていただいた。中学生が高度な内容のところまで、しっかり反応している様子を見て、改めて高校での指導の在り方について考えさせられた。
- ・ 校舎は面積にゆとりがあり、生徒の心の健康にもつながっていると感じた。エナメルバッグを置く棚が廊下があり、整然と私物が置かれていた。本校では私物バッグの置き場所がロッカーの上しかなく、容量オーバーの状態なので、うらやましく感じた。同じような棚を設置していただければ助かると思う。
- ・ 積極的に手を挙げる生徒がいて、雰囲気は良かった。

#### 【参観した教科】(参加人数)

英語(4) 数学(2) 理科(2) 社会(4) 国語(5) 美術(1)  
音楽(0) 保健体育(0) 特別支援学級(1)

### 3) 中高連携について

- ・ 近隣の秋田西中の現状も把握したい。
- ・ 本校の授業研修週間(授業公開週間)に勝平中の先生方にも授業参観していただいてもよいのではないか。
- ・ 大変良い取り組みだと思う。一層の充実を図ることを望む。
- ・ なるべく多くの先生方が参観に行くことができると考える。教科の枠を取り払って、何年かに1度は参観する機会を作ることが大切と感じた。
- ・ 都合がつく限りは毎年参加したい。

## 勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会 参加報告

### 研 修 部

- 1 と き 平成29年11月9日（木）
- 2 ところ 秋田市立勝平中学校
- 3 日 程 特定授業参観 11：05～11：55  
研究協議会 13：45～15：05
- 4 参加者 本校からは、特定授業（研究授業）参観に4名、研究協議会に2名参加

#### ～参加した先生方から～

##### 授業参観した感想

- ・生徒に考えさせる時間をたつぷりと設定していた。参考にしたい。
- ・1クラスが24～25人程度になっており、（実験や発表についても）適正な人数かもしれない。
- ・教材の準備がしっかりとなされていたことで、生徒は学習内容を理解しながら授業に取り組んでいた。特に考えを整理させようとする教員側の配慮が各所に見られ、生徒も自分の考えを整理しやすかったのではないかと考える。
- ・板書の簡略化が図られており、生徒は内容を理解しやすかったと思う。また、ホワイトボードを二つ活用し、「導入」、「展開」の切り替えを円滑にする配慮が見られた。
- ・機械を利用した課題であったため、動作に誤差が生じる。そのため、幅を持たせた課題目標を設定しており、生徒の考えを生かす部分が見られた。
- ・ラミネートで作成したホワイトボードに試し書きをさせ、グループで検討させていた。活発な意見交換がなされており、生徒も充実感を味わいながら授業に取り組んでいたと思う。また、ホワイトボードに「応援メッセージを書こう」と指導をしていた。仲間を認め、協力して問題解決を図っていく生徒を育成しようとする指導体制が、学校全体で実施されている雰囲気を感じることができた。
- ・『徒然草』の発展学習として、教師側が設定した3段階のレベルの章段に「題名」を付けるという授業で、大変興味深かった。ワークシートには注釈付きの古文が掲載されていた。全訳がなくても注釈を頼りに、グループで話し合いながら題名決めをしていた。中学生でも注釈があれば口語訳できるということがわかった。

【参観した教科】（人数） 国語（1） 理科（2） 技術・家庭（1）

##### 教科研究協議会の様子

###### 【国語科】

###### ○内容

###### 1. 授業者から

- ・他のクラスで実施した際に全訳を与えたところ、盛り上がらなかったことから、注釈は最低限にし、過保護にしないようにした。

- ・教師側の補足説明が長かったことが反省点。
- ・古文嫌いな生徒が少なからずいるが、その理由を聞くと、「省略が多すぎて分からない」「文章が短すぎて（凝縮されすぎて）いてわかりづらい」「情報が少ない」などの点を挙げており、ある意味、古文の特徴をついた答えだと納得した。
- ・グループ学習においては、レベルの差があった方がいい場合もある。

## 2. 参観者の感想と質疑応答

- ・グループ内で教え合うなどして、非常に活発に取り組んでいた。必ずしも古文の得意な生徒が難易度の高い章段を選んだわけではない。分かる子が教え、分からない子は素直に教えられたりして、レベルの差があった方がいい場合もあるということが、今回の授業でわかった。
- ・章段の難易度の判断、生徒のグループ分けはどうやってしたのか。
  - 教師の判断で三つの章段を選び、ランク分けした。生徒の能力・習熟度に関係なく、好きな章段を選ばせ、同じ章段を選んだ者同士をグループとした。
- ・『題名』をつける」ことをねらいとしていたが、「題名」という言葉は適切か。
  - 今回の授業のねらいを考えると「教訓」という言葉の方が適切だったのではないか。
- ・自分たちが選ばなかった章段について発表されても判断できない。三つの章段に取り組ませる必要があったのか。
  - 一つの章段について、全員で共通理解する方が有効だったかもしれない。
- ・『古語辞典』は授業中使用しないのか。
  - 個人には持たせていないが、学校にまとまった数の辞書があるので、それを使わせることはできる。

## 3. 指導助言者から

- ・「内容にふさわしい『題名』を付ける」ことで、何の力がつくのかを考える必要がある。
- ・「登場人物は?」「何をしたの?」という問いかけをすることにより、大意をつかませることも大切。
- ・国語の力を付けさせるには「視写（書写）」させることも効果的である。
- ・一人1冊、辞典を持たせることを勧める。

### ○感想

『徒然草』の章段を原文で読んで、内容にふさわしい題名を付けるという授業だったが、高校でやってみても面白そうだった。また、逆に「題名」を呈示することによって物語を作らせるという授業実践もあるということで、これも機会があったら取り組んでみたい。授業者は初任研の先生だったが、それだけに教科としての授業研究が十分になされている様子が窺われた。中学校の先生方の、授業研究に対する意識の高さを知ることができた。

## 【技術・家庭科】

### 内容及び感想

#### 1. 授業者から

- ・本日の授業では、実践的体験を行うことを目標とし、また、コミュニケーションが得意ではない生徒が多いため、「協力」する場面を積極的に取り入れた。
- ・コンピュータを使わず、グループ学習する場面を設定した。
- ・すぐにコンピュータを操作するのではなく、自分の考えをフローチャートで表し、それを他の

---

---

生徒が改善するという流れで行うなど、話し合いは教室で行ってからコンピュータ室で実習を行っている。

- ・授業を行う上での課題は、コンピュータの操作能力、進度に差があることである。

## 2. 分科会参加者による情報交換

- ・技術家庭の授業では、実習を伴う場面が多いため、学習面だけでなくしっかり作業するという点も重要になってくるため、日々の生徒指導が大きく関わってくる。
- ・商業高校でもコンピュータの操作が苦手な生徒もいる。学力では見えない適性という部分があるかもしれない。
- ・中学校での情報教育と高校での情報教育が一つの流れになるためには、中高が情報交換を密にしていくことで、生徒のスキルを伸ばすことにつながるのではないか。
- ・平成32年からの小学校におけるプログラミング教育がどのような方針になるかによって、中学校での方針も決まってくる。

## 3. 指導助言者から

- ・学習のしつけがしっかりできており、規律があり聞き方がよかった。
- ・ICTやホワイトボードなどを活用した説明によって、生徒にとっては見通しが立てやすかったのではないか。
- ・授業者の言葉、タイミングがよかった。習熟度、個別指導がしっかりとできていた。
- ・「共有する部分」、「がんばる部分」を明確にすることで、生徒は目標を持ちやすいのではないか。生徒は「褒められたい」という気持ちを持っている。評価の観点を明確にすることで、やる気を引き出すことができる。

## 勝平中学校2年生による商業科目授業体験

商業科 佐藤和佳  
柏谷亜紀子

### 1. はじめに

小・中・高・特別支援学校連携協議会において、勝平小・中学校、秋田商業高校、きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着に努めるとされている。そのような状況の中で、中高交流授業の一環として勝平中学校の2年生が秋田商業高校を訪問し、授業を体験することで商業科目及び商業高校についての理解を深めている。

### 2. 実施内容

今年度の中高連携授業は平成30年2月14日（水）に行われ、昨年度に引き続き、本校の3年生が「電子商取引」で学ぶHTML言語を用いてWebページの作成を行った。導入部分では、商業科についての説明や各コースの説明、情報コースについての説明および電子商取引についての説明を行った。その後、Web作成に入り、中学生はメモ帳を使いHTML言語を入力した。昨年度の反省を踏まえ、今年度は事前にキーボード操作の習熟度別に教室を分けたため、全体的に比較的スムーズな実習となった。完成したページの背景色や文字色を変更してプレビューで確認するという内容も追加したが、こちらも生徒それぞれが好きな色に変更することで、楽しんで取り組んでいたように思う。本校教員だけでなく、勝平中出身の本校情報コース3年生もこの授業のアシスタントとして、後輩たちへの指導を経験した。

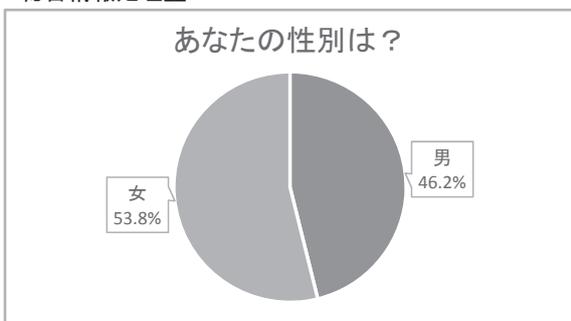
時 間	内 容		備 考
～ 9:50	秋田商業高校到着、生徒昇降口で内履きに履き替えて各教室へ ※昇降口にブルーシートを敷く		1校時
10:00 ～10:10	総合情報処理室（定員88） 73名（男子31、女子42） 開会行事 （進行：藤原） 1 挨拶（中村教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	プログラミング室（定員44） 41名（男子27、女子14） 開会行事 （進行：佐藤俊） 1 挨拶（加藤教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	2校時
10:20 ～11:30	授業体験 担当：佐藤和、菅原、藤原 ※勝平中卒業生（3E 4名）	授業体験 担当：柏谷、佐藤俊 ※勝平中卒業生（3E 1名・F 2名）	3校時
11:30 ～11:40	閉会行事 1 挨拶（中村教頭） 2 勝平中生徒挨拶 ※アンケート回収	閉会行事 1 挨拶（加藤教頭） 2 勝平中生徒挨拶 ※アンケート回収	
11:50～	勝平中学校へ移動		

3. アンケート集計結果（対象者 勝平中学校2年生 114名：男子58名 女子56名 但し、当日8名欠席）

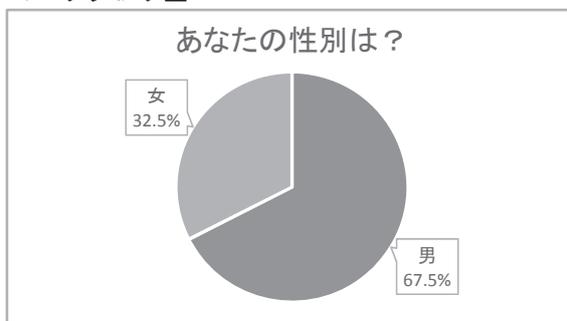
Q1. あなたの性別は？

	総合情報	プログラミング	
男	30	27	57
女	35	13	48
	65	40	105

総合情報処理室



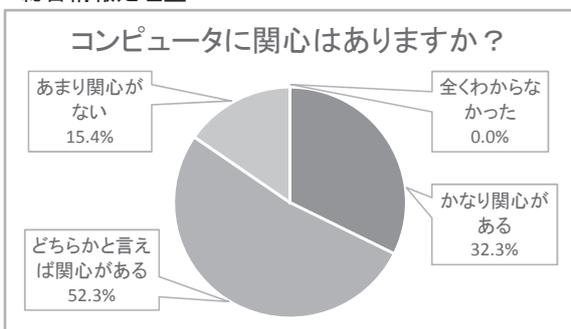
プログラミング室



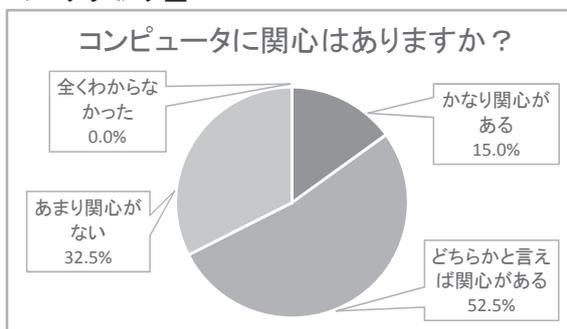
Q2. コンピュータに関心はありますか？

	総合情報	プログラミング	
かなり関心がある	21	6	27
どちらかと言えば関心がある	34	21	55
あまり関心がない	10	13	23
全くわからなかった	0	0	0
	65	40	105

総合情報処理室



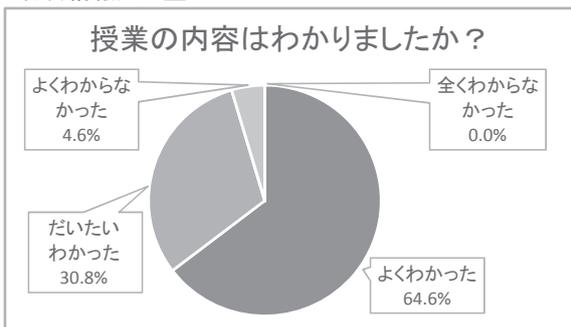
プログラミング室



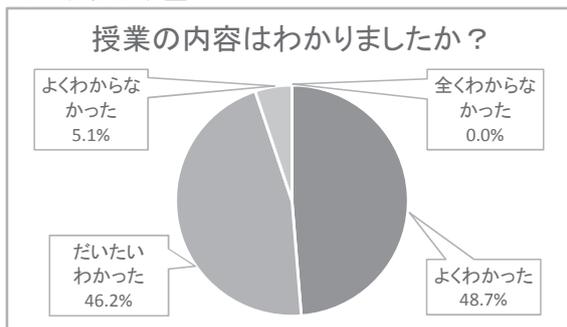
Q3. 授業の内容はわかりましたか？

	総合情報	プログラミング	
よくわかった	42	19	61
だいたいわかった	20	18	38
よくわからなかった	3	2	5
全くわからなかった	0	0	0
	65	39	104

総合情報処理室



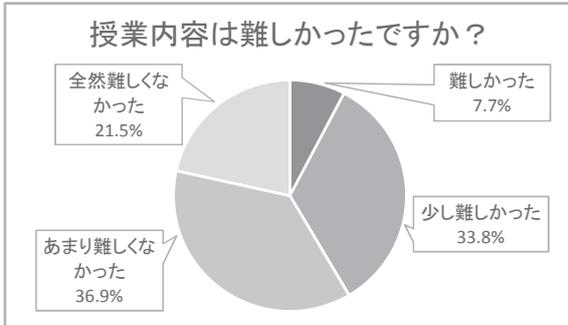
プログラミング室



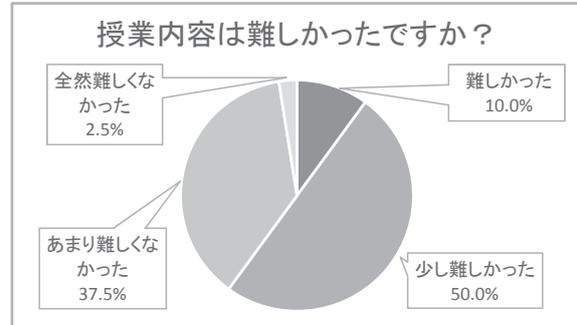
Q4. 授業の内容は難しかったですか？

	総合情報	プログラミング	
難しかった	5	4	9
少し難しかった	22	20	42
あまり難しくなかった	24	15	39
全然難しくなかった	14	1	15
	65	40	105

総合情報処理室



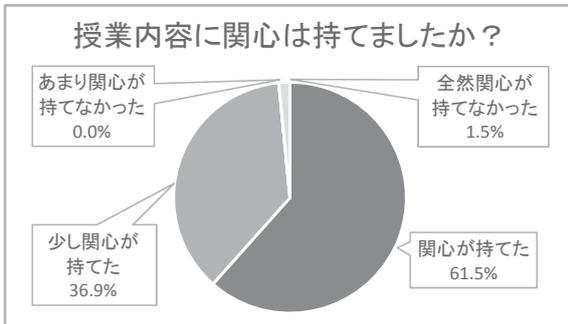
プログラミング室



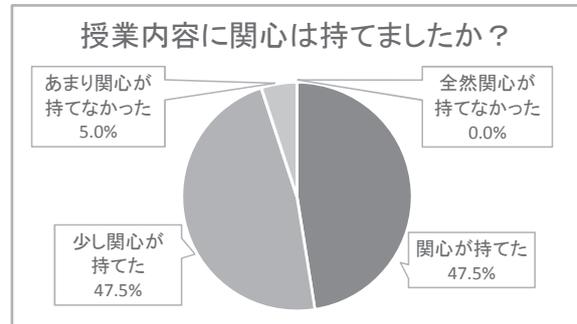
Q5. 授業内容に関心は持てましたか？

	総合情報	プログラミング	
関心が持てた	40	19	59
少し関心が持てた	24	19	43
あまり関心が持てなかった	0	2	2
全然関心が持てなかった	1	0	1
	65	40	105

総合情報処理室



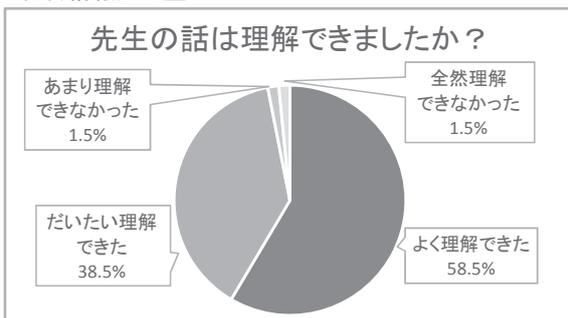
プログラミング室



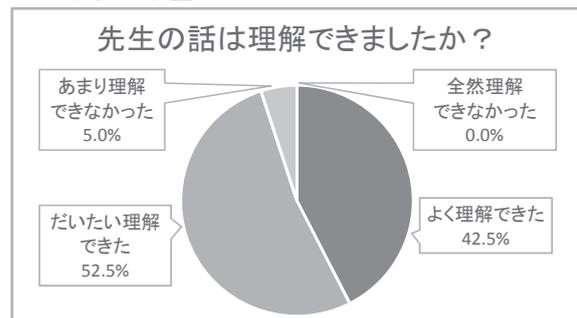
Q6. 先生の話は理解できましたか？

	総合情報	プログラミング	
よく理解できた	38	17	55
だいたい理解できた	25	21	46
あまり理解できなかった	1	2	3
全然理解できなかった	1	0	1
	65	40	105

総合情報処理室



プログラミング室



Q7. 質問したいことがありますか？

	総合情報	プログラミング	
ある	60	36	96
ない	5	4	9
	65	40	105

4 参加生徒からの質問 ※回答は後日「アンケート結果」とともに勝平中学校へ送りました。

Q1 全部でどのくらいの教科がありますか。

A1 『国語』『地理歴史』『公民』『数学』『理科』『保健体育』『芸術』『外国語』『家庭』『商業』の10科です。それぞれの教科に科目があり、たとえば『国語』は「国語総合」「国語表現」「現代文B」「古典A」の4科目あります。全部で10教科47科目、それに『総合的な学習の時間』として、「AKISHOP」「キッズビジネスタウン」「エコロジカルビジネス」があります。一番たくさん科目があるのは商業で18科目あります。

Q2 秋田商業高校といえば、どうしても、コンピューターで授業したり、将来商売を行いたいという人が行くイメージです。商業のことを詳しくやるから、必ず将来商売をしなければいけませんか？あまり将来商売という職につかないという人が行くのは、向いていませんか？

A2 確かに簿記や情報処理など、商業に関することを深く学習しますが、だからといって必ず商売の職に就かなければならないというわけではありません。卒業生の4割近くが就職しますが、販売だけでなく事務やサービス、製造、保安といった様々な種類の仕事に就いています。また、進学する生徒は6割以上おり、進学先で深く学ぶ分野として、商学や経済、経営のほか、情報や看護医療、法学、体育学、保育、栄養、美容、デザインなど様々な分野が選択されています。将来商業に関連した職に就かない人も、在学中にいろいろなことを学びながら自分にふさわしい進路を選ぶことができます。

Q3 商業の女の先輩は、全員で何人いるのですか。

A3 今年度は、全校生徒715人中398人、約56%が女子です。

Q4 どうやったら商業に入れますか？

A4 (1) 中学校での学校生活をしっかり送ってください。

①授業をしっかり受けてください。中学校生活の基本は授業です。予習をして授業に臨み、授業中は各活動に積極的に取り組んでください。

②部活動に所属している人は、部活動を頑張ってください。秋田商業は文武両道（学習と部活動の両立）を目指している高校です。中学校の時から授業と部活動を両立させる努力が必要です。

(2) 家庭学習を毎日1時間以上頑張ってください。

・秋田商業に入学してから、高校の学習をするために必要な基礎学力は授業だけでは不十分です。秋田商業に入学後も資格取得や進学のために家庭学習が2～3時間必要となります。中学校の時から家庭学習の習慣をつけましょう。

Q5 Macの場合は、メモ帳のかわりに何を使えばいいのですか？

A5 Mac CSでは「テキストエディット」というソフトがあります。しかし、Macの場合は、HTMLに特化したほかのソフトウェアもあるようです。

Q6 a hrefなどの他の命令が知りたいです。

A6 <a href=“リンク先URL”>～</a>は、設定された他のページへジャンプする命令です。ほかにここでは紹介しきれないくらいたくさんコマンドがあります。ぜひ本校に入学して勉強して下さい。

## 5 参加生徒の感想

- ・いつも見ているホームページがこのように作られていることが分かりました。少し難しかったけど、おもしろかったです。自分でも簡単に作ることができ驚きました。
- ・ホームページの中身のしくみがわかりました。自分でもやり方が分かれば簡単に作ることができていることを知ることができたのでよかったです。少し難しかったけど作ることが楽しかったです。
- ・少し難しかったけど、WEBページの作成のしかたがわかった。
- ・普段何気なく見ているWEBページを自分でも簡単に作ることができていることを初めて知りました。今度自分でWEBページを作ることがあったら文字の打ちまちがいに注意したいです。
- ・ホームページの作り方や構成について初めて知ることができました。
- ・高校で、どのようなことをするのか、よく分かりました。WEBページを作成することは、普段やらない体験だったのでたくさん知ることができ、さらに関心をもつことができました。ありがとうございました。
- ・アルファベットを並べてどんな意味があるのか、どうすればいいのか、良く分かったのでよかったです。
- ・中学校の技術の授業では、文字や写真をそのまま入力していましたが、今回ウェブページの作り方を学んで、文字列によって命令することができるのを初めて知り、驚きました。高校生になるとできなくてはいけないことが増え、授業の進み方もさらに速くなると思うので大変そうだと思います。
- ・インターネットでこういうページをよく見るけど、どうやって作っているのか知らなかったもので、今回の授業は楽しかったです。記号や文字に、それぞれ意味があるということを知って、とても驚きました。
- ・普段見ている、Webサイトのでき方、裏側を見て、アルファベットが多くて難しそうだなと思いました。でも、手順やアルファベットの意味を知って書き方などが分かったのでよかったです。一人で作るには、まだできないことが多そうなので、手順から覚えてみたいと思いました。
- ・ソースを入力したことがなかったので出来るか不安でしたが、分かりやすい説明



のおかげで簡単に入力することができました。ありがとうございました。

- ・今回の授業を通して、Webページの作り方などがよく分かりました。将来社会人になったときに、役立てていきたいです。
- ・今回の授業を通して、WEBページの作成の仕方がわかりました。
- ・Webページリースの入力の仕方を分かりやすく教えてくれたので入力できました。
- ・Webページの作成の仕方がよく分かりました。これからの生活に活かしていきたいです。また、体験したいです。
- ・専用ソフトがなくても簡単なホームページであれば作れることが分かった。
- ・コンピュータに関心を持つことができました。入力に使った記号には様々な意味があることが分かりました。これからもコンピュータを積極的に使っていきたいです。
- ・体験を受ける前はコンピュータに対して分からないことがたくさんあって少し心配だったけれど、実際に授業を通してホームページの作り方について知ることができました。また、コンピュータへの関心が持てました。
- ・パソコンにとっても興味があったのですが、あまり知識がありませんでした。でも今回の授業でWebについて、作り方のプログラミングについて学び、とてもよい体験ができました。高校生の先輩方が優しく教えて下さいました。
- ・しっかり理解できなかったです。しかし、高校生が優しく教えてくれたのでよかったです。
- ・何も分からなかった商業についてたくさんを知ることができました。
- ・今日やったようなことは初めてだったけれど、プリントをしっかり見たり、先生の話をしっかり聞いて、上手く作れました。また、商業についてもいろんなことを知れたので良かったです。
- ・Webページを作るのは初めてだったけれど早くできました。この高校を受験してもっと詳しく勉強したいです。
- ・あまりパソコンは使ったことがなくて少し難しかったですが、少しは上達できたかなと思いました。この経験をどこかで生かせたらなと思いました。
- ・ウェブサイトを作るには様々な工夫をしなければならないのが分かったし、パソコンや商業についてもしっかり理解できたし、興味も持てたので良かったです。
- ・簡単なホームページの作り方が分かりました。知らないことを知れたので良かったです。
- ・今日の授業では、いろいろなことを楽しく学びました。色の付け方も楽しく学びました。今回のことを活かして、パソコンを使っていきたいです。
- ・今回の授業では楽しくホームページの作り方を学びました。色の種類などもたくさん学びました。
- ・今回の授業でコンピュータについての考えが変わりました。あと、商業高校はどんなところか少しだけでもわかってよかったです。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・中高交流授業で、先生の指示にしっかり従いました。でも、先生の話を理解することは少し難しかったです。ページソースをしっかり入力できたのでいいと感じました。
- ・あまりパソコンを使ったことがなく、興味がなかったが、先生や先輩方がわかりやすく教えてく



ださり、だんだんとパソコンを使うことの楽しさや商業に関して知ることができた。

- ・パソコンにはあまり興味がなかったけど、今日の授業をうけてパソコンをすることが楽しかったので、家にパソコンがあるので活用していきたいです。
- ・説明がわかりやすかったし、はじめてのことが多かったです。
- ・とても楽しく授業等が受けられました。



今回コンピュータに興味を持つことができました。色を変えたり、文字を打ったりするのが楽しかったです。

- ・今回はとても楽しくできてよかったです。コンピュータで簡単にウェブページを作れてびっくりしました。今日はありがとうございました。
- ・コンピュータはあんまり好きじゃなかったけど、自分でたくさん字を打って色を変えたりできたのでとても楽しかったです。いろんな話を聞いて、もっと商業高校のことを知りたいと思いました。
- ・自分はあまりスムーズに進められませんでした。最後らへんにはだいたいのやり方はわかったので良かったです。
- ・エラーが発生してしまったが、楽しく最後までやることができたので良かったです。
- ・ページを作ることができて楽しかったです。教え方がわかりやすく、簡単に進めることができました。
- ・わからないところがあったときに優しく教えてくれてとても助かりました。しっかりと完成することができて良かったです。
- ・分からないことが多かったけれど、どうやればいいのかを聞いて、しっかりと理解して、作業を進めることができた。
- ・色のやり方やシフトが分かったので良かったです。
- ・けっこうコンピュータができたのでよかったです。
- ・コンピュータはあまり授業でやったことがなかったので、とても楽しかったです。
- ・パソコンに対してのイメージが変わった。これからは今までよりも積極的にパソコンに関わっていきたい。
- ・商業高校で科目の種類の説明を聞いて、電子取引の内容に興味がわきました。
- ・今日、ここに来て、パソコンの使い方が、少しくまってきたのでよかったです。このことを、家でもやれるように頑張りたいです。
- ・コンピューターの授業をしているいろいろなことを学べることができたのでよかったです。僕はコンピューターを使うのは苦手だけど説明が分かりやすくてだいたい理解することができたのでよかったです。
- ・文字の色や背景の色の変え方が分かった。先生の教え方がよく、分かりやすかった。商業のことを少し知ることができてよかった。
- ・色をFFFFFFやCC0000などに色を変えるのが楽しかった。

- ・初めてこのような体験をして、最初はむずかしいかなと思っていたけどわかりやすい説明で楽しんで活動できたので良かったです。
- ・あまりコンピューターが得意ではなく、いろいろ不安なこともありました。楽しく学習ができました。
- ・思ったより楽しかった！コンピューターに少し関心がもてました。
- ・今日パソコンをして、商業は難しいと思った。
- ・ページを作ってみて、あまり難しくなくて、楽しくやれたので、よかったです。
- ・授業の内容は理解できたけど、実際にパソコンを使ってほとんど進めることができなかつたけど、楽しかったです。
- ・商業の女の先輩たちが、やさしく、笑顔で教えてくれてありがとうございます。とても、カワイイですね。
- ・WEBページを作成したのは初めてだったけど、先生方がていねいに教えてくださったので、問題なく作成することができました。これからもコンピューターに関わりをもっていたいと思いました。ありがとうございました。
- ・説明が分かりやすかつたので、とても楽しかつたです。前よりも、コンピューターに関心を持つことができました。
- ・少しでも間違ふと、まったく違ってくるので、今度パソコンを使うときは、しっかり気を付けて入力するようにしたいです。あと、色の変え方なども分かつたので、今度使ってみたいなと思いました。
- ・ホームページをつくることができたので自分でもつくれるようにしたいです。
- ・とてもいい体験になりました。
- ・ゲーム的なものがあると楽しかつた。
- ・コンピューターにあまり詳しくないけど高校生の人がやさしくおしえてくれてとても詳しくなりました。
- ・コンピューターの使い方が分かりました。文字の色の変え方なども分かつたのでよかつたです。もっといろいろな操作の仕方を知りたいと思いました。
- ・間違えたときに、わかりやすく教えてもらってしっかり直すことができました。また、自分が将来なりたい仕事に関係していたので、とても参考になりました。
- ・コンピューターには関心があるので、とてもおもしろかつたです。パソコンをもっと使いたかったです。
- ・今日は、インターネットについて、今まで全然知らなかつたことを知ることができました。授業内容は難しかつたけれど、周りの先生方や生徒の人たちに教えてもらい、とても楽しい時間でした。
- ・コンピューターを普段あまり使わないのですが、今日で結構関心をもつことができたのでよかつたです。おもしろかつたです。
- ・webページの作り方がよくわかりまし



---

た。1文字のミスでかなり変わってしまうのは、怖いなと思いました。初めてやるのがたくさんあって、おもしろかったです。インターネットについて今までより関心を持つことができたのでよかったです。

- web ページを作ったことがなかったので、実際に作ってみるとおもしろかったです。一つ一つの作業をしっかりやらないと、作りたいものができなくなってしまうことが分かったので、素早く、よく見てやるのが大切だなと感じました。楽しかったです。
- パソコンにもともとあるもので自分でも簡単にウェブサイトが作れることが分かりました。ソースの文字にも一つ一つ意味があることが分かりました。楽しく学べたので良かったです。
- 分からない操作があったら優しく教えてくれてうれしかったです。入力したソースの内容について知ることができたので良かったです。また、# F F F F F Fなどは色を表していることに驚きました！！楽しく学べたので良かったです。
- web ページソースの入力は一つの文字をミスすると変わってしまい大変だなと思ったけど、作成が上手くできると興味をもてました。また、色の決め方にも驚きました。
- 簡単なものだけど web ページを作ることができたのでよかったです。将来に生かすことができそうな授業だったのでしっかり覚えておきたいです。
- ていねいな説明でかなりわかりやすかったがついていけなかったのがあまりよくできなかったがおもしろかった。周りの方がかなり助けてくれて優しかった。とても楽しかったし、勉強になった。
- 少し焦ってしまって、間違いが多かったけど、周りの先生たちに教えてもらい、完成できたのでよかったです。
- 作業が終わってから見直してみると、間違いがかなり多くて、直すのが大変でした。
- 今日の授業でホームページの作り方や保存の仕方がわかりました。わからないところも多々あったけど、教えてもらって完成させることができて良かったです。
- Web サイトを作ってみて、文字の打ち込みをパソコンで久しぶりに行ったり、パソコンになれることができました。これからは、パソコンも積極的に使い、うまく使用できるようにしたい。
- コンピューターにはいろいろな機能があって、興味深いなと思いました。
- web ページの作り方や今まで知らなかった事を知ることができたのでよかったです。ありがとうございました。
- WEB ページの作成をして、わからなかった知識をたくさん知ることができたのでよかったです。ありがとうございました。
- 今日は、コンピューターについての授業を知ることができました。授業の内容は少し難しかったけど、覚えることができたので、家とかでもやってみたいです。
- 話を聞いただけではわからなかったことも画面を見て理解することができてとてもわかりやすかったです。web ページは自分たちでも簡単に創ることができるのを知り、とてもタメになった体験だと思いました。
- 今回の授業で、初めてやった操作などがたくさんありました。また、一つ一つの文字に意味があることを初めて知りました。
- 今回の授業では初めてやったことがたくさんありましたが、先生の話聞いてやることができました。数字や文字に色や意味があることを知ることができました。コンピューターを使うときは、今回のことを生かしてやりたいです。

- 
- ・webページソースについてスラッシュをつける意味などたくさんのことを今日の授業で知れてよかったです。
  - ・Webページソースの入力のしかたがわかり、とても楽しい授業でした。コンピューターへの関心が深まりました。
  - ・コンピューターで情報の入力の仕事が分かりました。〈html〉の意味が理解できたのでよかったです。
  - ・まったく知らなかったWebページの作り方を知ることができました。コンピューターについて、自分から、色々調べてみたいです。
  - ・今日は楽しくWebページを作ることができたので、今度また作ることがあれば今日学んだことを生かして作りたいです。
  - ・パソコンがこんなにも楽しいものだということが分かったので興味を持つことができました。家でもやってみたいです。
  - ・自分で簡単にWebページを作ることができるということを知ることができたのでよかった。
  - ・簡単にWebページを作ることができた。家でも作ってみたいと思った。
  - ・いつも何気なく見ているWebサイトだけど、このようにして作られたことが分かりました。僕も機会があったら調べて作ってみたいです。
  - ・パソコンのWebサイトについて詳しく分かることができた。これからもどんどんパソコンについて自分で学んでいきたい。またこのことを使ってこれからもがんばりたい。
  - ・1個の文字がないだけでプログラミングが大きく変わることを知り、一つ一つの操作はすごく重要なことだと授業を通して知ることができました。プログラミングは商業をするときにすごく役に立つことだと思ったので、私もプログラミングをもっと詳しく知り操作できるようになりたいです。
  - ・今日はウェブの作り方を学びました。あまり理解することはできなかつたけど、高校生の人たちに聞いたりしてできたのでよかったです。いい体験ができました。
  - ・今日はあまり体験できないようなことを勉強することができたので良かったです。これからの生活で使うことがあったら生かせるようにしたいです。
  - ・この授業でサイトの作り方を詳しく知ることができました。サイト作りは、とても難しい操作や覚えておかないといけないような文字がたくさんあったので、もっと勉強してみたいと思いました。1文字間違えただけで全体に影響して、緊張することもありましたが、商業高校の高校生が一つ一つ教えてくれたので、とても楽しかったです。もっとコンピューターに関心を持ち、サイト作りを学びたいです。
  - ・Webページを作るのは初めてだったけど、たくさん入力して作るんだなと思いました。仕組みが知れて楽しかったです。
  - ・普段見ているウェブページが自分で作成できてとても驚きました。パソコンの操作が思ったより簡単にウェブページの仕組みを知ることができました。
  - ・楽しかったで一す！

# 授業公開週間実施報告

## 研 修 部

- I 趣 旨** お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。
- II テーマ** 学びの意欲を喚起するための授業改善  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
- III 期 間** 1回目 6月12日（月）～23日（金）  
2回目 11月13日（月）～24日（金）
- IV 授業するに当たっての留意点**
- ①「本時の目標」をきちんと示し、確認する。
  - ②生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。
- V 実施方法**
- (1) 期間中、各教科代表者1名（今年度研修対象者は除く）が、アピール授業を行う。なお、商業科に関してはコースごとの代表者1名以上がアピール授業を行う。  
その際、最低1回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者に配付する。  
アピール授業は、時間割変更黒板の時間割に赤の蛍光ペンでマークをする。
  - (2) 期間中、全職員が自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上（家庭科・芸術科は他教科2時間以上）の授業を参観する。
  - (3) フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよい。ただし、授業時間の半分（25分）は参観する。  
※参観する際のポイントは参観シートに記載
  - (4) 参観時には『参観シート』（時間割変更黒板の下に準備）を持参し（1授業につき1枚）、記入して『参観シート提出袋』（教頭席前）に提出する。  
※研修部でマークシートを読み取った後、授業者へ渡す。
  - (5) 授業変更等がある場
    - ①期間中、出張・年次の場合は、できるだけ授業変更をする。事前にわかる場合は、研修部担当者まで知らせる。
    - ②時間割変更黒板の時間割に黒で変更後のクラス・実施場所などを書き込む。事前に知らせてもらったものに関しては、時間割に反映させる。
    - ③やむを得ず自習にする場合は、時間割に黒で「自習」と書き込む。



2) 1) で「取り組んでいない」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・よくわかりません。
- ・開催していない。
- ・時間がなかった。
- ・時間がなかなかとれない。
- ・一人なのでできませんでしたが、アピール授業に多数の先生が来てくださり、ご意見をもらえてよかったです。

5 1) 教科主任の先生はお答えください。教科内で科会を開きましたか？

- ・はい (7人)
- ・いいえ (2人)

2) 1) で「いいえ」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・一人なのでできませんでしたが、非常勤の先生と情報交換する際に指導案を見てもらいました。

6 実施時期及び期間に関する意見ついて、あてはまるものを選んでください。

【実施時期について】

- ・今のままでよい (42人)
- ・変えた方がよい (2人)
- (いつ頃) ・月曜日スタートにこだわらなくても良いと思う。(「公開期間」にしても良いと思う。)
- ・年1回でもいいのでは。

【実施期間について】

- ・今のままでよい (41人)
- ・もっと短い方がよい (1人) (1週間～10日位)
- ・もっと長い方がよい (1人) (21日位)

7 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を記入してください。

- ・自教科なので、効果的な話し合い活動とはどんなものがあるか考えたいと思っている。
- ・ビジネス情報で行っていたアクティブラーニングの方法。
- ・コミ英Ⅱの音読練習のやり方。
- ・今回は特にありません。
- ・実物商品を見せての授業。
- ・全員を起立させての一斉音読です。
- ・プリント学習。
- ・教科書以外の教材を活用した授業。
- ・板書をパソコンで作成し、スクリーンに映すという効率の良さを参考にしたい。
- ・板書の一部としてICTを取り入れているひなこ先生のような授業。

- ・付箋紙を使用し、意見を集約する方法（国語）。
- ・商業の授業は国語の授業と内容がかなり異なるので、取り入れるのはなかなか難しいですが、板書が美しく、見やすかったので、取り入れるというよりは改善したいと思います。
- ・ICTの活用、言語学習。
- ・グループに与えた課題を交換し、自グループの内容と比較する。
- ・グループ内で互いに説明する場面づくり。
- ・体育の授業で、倒立前転ができる人、できない人に分けて指導していました。技術面の指導という意味で、自分の授業（家庭）にも取り入れたいです。
- ・ICTの活用。
- ・教具の利用。（2）
- ・ビジネス情報（佐々木一秀先生）のアドバイスシート。
- ・生徒の興味を引きつけるための、教材を工夫することや、考えさせる工夫（個人、グループ）をすること！！
- ・グループでの話し合いが活発になる発問をしたい。
- ・体育マット運動。
- ・生徒が生き生きと話し合い活動しているのを参観し、ぜひ取り入れてみようと思った。
- ・パソコンをうまく使った授業。
- ・できないけど、スクリーンにいろいろ映す授業をしてみたい。
- ・パワーポイントを使った授業。

8 今後、自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら、記入してください。

- ・グループ学習の際の課題提示の方法。
- ・グループ活動のやり方で、活動だけにならないようにしたい。
- ・指導主事に文句をつけられない授業とはどんな授業なのか。
- ・ICTの活用。
- ・もう少しアクティブを出したいが、「耐える」授業は大事と思う。
- ・生徒が考えて発言する場を授業の中で多く取り入れたい。
- ・生徒相互のコミュニケーション活動を増やしたい。

「第2回 授業公開週間」アンケート等集計結果（1/24）

回答数 49人/49人（100%）

授業参観者数 49人/49人（100%）

自教科 45人/49人（92%）

他教科 47人/49人（96%）

◎参観シート集計結果

参観日	人数
11月13日（月）	1
11月14日（火）	12
11月15日（水）	2
11月16日（木）	2
11月17日（金）	1
11月20日（月）	5
11月21日（火）	27
11月22日（水）	25
<b>11月24日（金）</b>	<b>28</b>

参観校時	人数
1校時	25
2校時	12
<b>3校時</b>	<b>29</b>
4校時	11
5校時	14
6校時	12

参観教科	人数
国語	8
数学	16
英語	17
地歴公民	21
理科	6
<b>商業</b>	<b>27</b>
保体	6
家庭	2
芸術	0

1 担当教科は何ですか？

国語（5人） 地歴・公民（3人） 数学（4人） 理科（3人）  
 保体（5人） 芸術（1人） 英語（6人） 家庭（1人）  
 商業（21人）

2 いくつかの授業を参観しましたか？ あてはまる欄に○をお願いします。

授業数	自教科	他教科
1	40	36
2	3	9
3	2	2
4	0	0
5以上	0	0
参観者合計	45	47
参観していない	3	1
未記入	1	1

「参観していない」と答えた方はその理由を記入してください。

- ・初任者や教育実習生の授業を見たり、他教科のを優先してみたり、出張だったり、自分の授業があったり、自教科まで手が回らなかった。
- ・タイミングを逃しました。

3 他教科では何の教科を参観しましたか？

国語（3人） 地歴・公民（17人） 数学（12人） 理科（3人）  
 保体（4人） 芸術（0人） 英語（9人） 家庭（4人）  
 商業（6人）

4 1) 組織として取り組むことができましたか？

- ・教科全体で取り組んだ 17人
- ・同一科目担当者とともに取り組んだ 14人
- ・取り組んでいない（取り組めなかった） 18人

2) 1) で「取り組んでいない」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・2日目に急遽アピール授業ということになり、話し合いの時間が持てなかった。
- ・取り組む余裕がなかったため。(時間的に)
- ・科会を開く時間がとれなかった。
- ・各部が大会等で忙しかったのと選択種目で分かれていたため。
- ・せめてみんなで参観する等があっても良いと思う。
- ・教科で1人なので取り組めませんでした、他教科の先生に参観してもらえて良かった。
- ・同一科目を持つ人がいないので組織で取り組めませんでした。
- ・テスト前で範囲が終わっていなかったため、余裕がなかった。
- ・話し合う機会をとれなかった。
- ・時間がない。(出張が多かったため)
- ・今回のアピール授業は担当している科目ではなかったため、自身は話し合いに参加していない。

5 1) 教科主任の先生はお答えください。教科内で科会を開きましたか？

- ・はい 3人
- ・いいえ 6人

2) 1) で「いいえ」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・時間がとれなかった。
- ・開催する時間的余裕がなかったが、個々には意見を聞き合った。
- ・あわただしかったので、口頭で情報交換をしてすませた。
- ・教科で1人なのでできませんでしたが、アピール授業の指導案を非常勤の先生に見てもらったりしている。
- ・まず人数が揃わない。教育実習生の指導や検定の補習もあり、放課後の時間がとれない。

6 実施時期及び期間に関する意見ついて、あてはまるものを選んでください。

【実施時期について】

- ・今のままでよい 42人
- ・変えた方がよい 6人

(いつ頃：検定試験対策と重ならない時期、特割でない時、教育実習とはかぶらない方がいいと感じた。)

- ・未記入 1人

【実施期間について】

- ・今のままでよい 37人
- ・もっと短い方がよい 1人 (10日位)
- ・もっと長い方がよい 4人 (15日位 (3週)、11/13~30、30日)
- ・未記入 7人

7 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を記入してください。

- ・ P P での授業進行。
- ・ 黒板にプリントを貼り、ふせんで隠して、効果的に教材を提示したい。
- ・ 簡易ホワイトボードを1人1枚使いメモ用紙代わりに使っていた。  
グループ学習の際に活用することができそう。
- ・ コミュニケーション英語でやっていた、言葉からイラストをイメージさせる授業。
- ・ 野呂先生の大らかさ。泉先生の話術。板書。2人のベテランらしさ。雰囲気。
- ・ 生徒とのやり取りを発問に組み入れる。
- ・ 特になし。(2)
- ・ ゲームのような活動を取り入れる工夫。
- ・ プリントの活用。
- ・ 最後の到達点を明確にする(菅生先生の授業)。
- ・ 音読のさせ方。
- ・ パソコン・プロジェクターを活用したもの。
- ・ プロジェクターで視覚に訴える授業。(2)
- ・ 授業のルール作り(1年間を通した)。
- ・ 今先生の班学習。解説をしながらの発問に対し、生徒の応答がとてもスムーズで、ぜひ、手法を学びたい。
- ・ グループ学習(今年は、やれそうな授業が無いので)。
- ・ 教材提示装置の活用。
- ・ 理科の実験結果。
- ・ 国語表現。調べ学習→発表。
- ・ プレゼンのソフトを使った説明。
- ・ 世界史の授業で、教材が工夫されていた。また、先生がとてもパワフルだった。
- ・ パワーポイントの利用や、動画での資料提示！！
- ・ 明るく前向きに取り組むような授業(体育)を目指します。
- ・ 作業をさせて考えさせる題材の研究。
- ・ スライド投影、グループでの話し合い。
- ・ I C T の活用。
- ・ 答えだけでなく、そこにたどりつくまでの過程もしっかり発表させる。
- ・ パワーポイントの提示方法。
- ・ 関数のグラフが対称であることを、プリントを折って実感させること。教科が異なるのでそのままは不可能だが、自分の意見や答えが合っているかを体験できる活動を行いたい。
- ・ 課題、あるいは資料を黒板なり、スクリーンなりに映し出した状態で、黒板を使いながら授業を進める形態。
- ・ グループ学習や話し合いの時間を設定し、生徒の意欲を引き出す授業を取り入れていきたい。
- ・ プリントに写真を入れて、わかりやすくする。拡大コピーでポスターにして、表を黒板に貼る。
- ・ 数学の授業で行われたグループ活動。

8 今後、自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら、記入してください。

- ・スムーズな授業進行。
- ・生徒の反応を大事にしたい。
- ・生徒が集中して聞いてくれるような教材研究を心がけたい。
- ・板書の工夫。
- ・ペアワーク、グループワークで、もっと全員が参加できる工夫がしたい。
- ・T2としての役割。
- ・話術を改善していきたい。
- ・もっとICTを活用したい。(2)
- ・板書をきれいにしたい。
- ・ありますが、とりあえず生徒が眠くならないようにしたいです。
- ・一方的な授業からの脱却。
- ・生徒の身になった(立場に立った)教え方の工夫。
- ・わかりやすさと楽しさの両立。
- ・speaking・writingの活動をもう少し増やしていきたい。
- ・1時間に1つは、生徒同士で話し合わせる場面を設け、自発的な気付きのある授業にしたい。
- ・検定を追い越すより、もっと興味、関心を高める授業。
- ・生徒が自ら課題を設定し、問題解決に取り組む授業。
- ・より体験的で、生徒を動かすこと。
- ・理解を深める発問をもう少し多く取り入れたい。
- ・特になし。
- ・もっと生徒が「生き生き」するようにしたい。
- ・パワーポイントの利用や、動画での資料提示!
- ・頑張ります。
- ・ふりかえりを行うためのプリント作成。
- ・既習事項や、授業で扱ったキーワードなどを使って、発表するような活動。1年生から継続して行いたい。
- ・生徒の授業に向かう姿勢(意欲)。
- ・1つのやり方にこだわらず、いいと思ったこと、面白いと思ったことを取り入れていきたい。
- ・生徒が発表、発言する場面を多くし、一方的な授業ではなく、生徒とともに授業を行う雰囲気を作れるよう改善していきたい。
- ・やはり、講義調からどうしてもぬけ出せない。対話式を入れたい。ねる子が出る。
- ・生徒間のグループ活動を取り入れたい。本時のふりかえり。

## Ⅶ おわりにー

授業公開週間も今年で6年目となり、授業改善につながる取り組みとして定着した感がある。いずれは研究授業週間へと発展させられたら、と始めたが、アピール授業制の導入により、かなりそれに近い形に落ち着いたのではないかと。この先も長く続けていきたい活動であるが、マンネリ化しないよう、より実効性のあるものへと変化させていくことは必要であろう。

## 第2回授業公開週間11/13(月)～24(金) 授業紹介

14日 1校時 2 B科学と人間 千田 義人



〈授業内容〉スナック菓子の油脂量を調べる



〈参観者の感想紹介〉

- ・お菓子をすりつぶしたり、エタノールを加えたり、濾過したり、生徒の生き生きした活動が見られ、見ているこちらにも楽しくなりました。
- ・ねらいが明確でわかりやすかった。比較分析ができる実験であったので、わかりやすかった。実験中に危険がないように周囲をよく観察していた。
- ・2枚黒板を生かし、生徒には本時の課題を考えさせ、その後本時の目標を提示する方法が良かった。

14日 1校時 3 CD体育 横山・菊地・山本



〈授業内容〉球技選択（ネット型）



〈参観者の感想紹介〉

- ・時間を区切って、指示、趣旨説明、練習を繰り返す、規律ある授業であった。
- ・バドミントンのラケットを取り合う運動は、コミュニケーション能力や他者への思いやりの要素も必要で、そういうものを養成する上で有意義だと思いました。
- ・自分たちで考え、楽しく取り組んでいる授業は、アクティブラーニングそのものでした。

14日 6校時 1E国語総合(古典) 戸澤 恵



〈授業内容〉 唐詩を味わう「峨眉山月歌」



〈参観者の感想紹介〉

- ・ねらいが明確で、それに沿ったわかりやすい授業でした。板書も見やすかったですし、補助教材も適度な内容で使いこなせていたと思います。ご自身の体験や身振り手振りを交えながらの説明が良かったと思います。
- ・「各自声に出して読んで」の指示にさっそく声が聞こえてきて素晴らしいと思いました。

15日 2校時 1E現代社会 今 聡



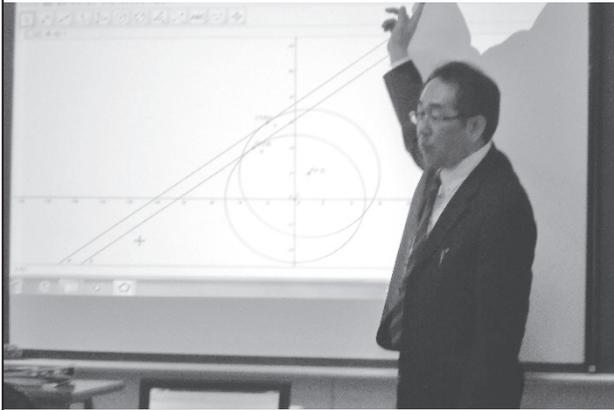
〈授業内容〉 市場のしくみ



〈参観者の感想紹介〉

- ・説明、説明中の発問、生徒のスムーズな応答、発表、板書による確認と、授業への取り組みが生徒によく身につけており、進むに従って生徒がどんどん集中し、学習内容に引き込まれていく様子がわかりました。
- ・生徒が混乱しかけた時、良いタイミングで先生がヒントを出し、生徒の思考がきちんと整理されていたと思いました。

21日 1校時 3A数Ⅱ 野呂耕一郎



〈授業内容〉円の接線



〈参観者の感想紹介〉

- ・ プロジェクタを活用することで、図の移動が視覚的にわかりやすかった。グループをすることで、協同的な学習になっていた。
- ・ 小テストも実施しており、応用問題も大変理解しやすかったと思います。
- ・ グループになりっぱなしではなく、まとめの段階で前を向かせて黒板に集中させることも大事なことだと改めて気づかされました。

22日 3校時 2EFプログラミング 佐々木・菅原・佐藤大・高橋



〈授業内容〉流れ図、プログラムの作成



〈参観者の感想紹介〉

- ・ 教材提示装置にホワイトボードをのせ、センターモニターに映す方法はなかなかだと思った。ホワイトボードを複数準備し、消さないで残しておけば本時の振り返りに使えると思った。
- ・ 説明と実技の区切りが良かった。
- ・ プリント課題から各自の実習に進み、それをグループで共有し、一つの答えとしてまとめるという、授業の流れが良かった。

24日 6校時 3ABCDEFフードデザイン 佐々木ひな子



〈授業内容〉調理実習：ミネストローネ



〈参観者の感想紹介〉

- ・シンプルなメニューですが、班によって個性が出ていたのがおもしろかったです。座学とは違う面が見えて良かったです。どの班も共同作業を上手に行っていました。
- ・1時間の中で、調理して食べて片付けることは時間的に大変なことだと思いますが、見事にできていました。これまでの学習や実習の積み重ねが感じられました。

## ビジネス実践『AKI SHOP』

商業科 櫻庭 咲子

### 1 はじめに

本校では平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模倣会社に見立て商品開発や販売、

地域貢献活動など行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。この活動の目的は、社会人基礎力を身に付けることであり、社会人基礎力は①前に踏み出す力②考え抜く力③チームで働く力の3つの力と定義している。

また、①自分と仲間がつながる②自分達と学校外（小学校・企業）の人達がつながる③自分達と自然がつながるといった「つながり」を大切に活動している。

### 2 今年度の取り組み

#### (1) AKI SHOPの活動を広くPRする

今年度は全国産業教育フェアの一環として行われるため、例年よりも広報活動に力を入れた。特に、秋田市広報広聴課に依頼して「きらきら秋田市から」で活動PRを行ったり、秋田朝日放送の「サタナビっ!!」の生中継で開発商品のPRを行ったりした。また、広報班が「AKI SHOP JOURNAL」というフリーペーパーを作成して、AKI SHOP当日にお客様に配布し、各班の活動内容をアピール

第27回 全国産業教育フェア  
AKI SHOP  
秋田商業高校 ビジネス実践学習  
2017. 10/21(土) 9:30-15:30  
4会場で開催  
秋田駅前西口大屋根下 エリアなかいち にぎわい広場 アゴラ広場 秋田市市民市場  
秋田市立秋田商業高等学校 TEL:0182-622-1338 http://akisho.ed.jp/

時間	会場	内容
10:00	秋田駅前西口大屋根下	開会式・PR活動
10:30	エリアなかいち にぎわい広場	PR活動
11:00	アゴラ広場	PR活動
11:30	秋田市市民市場	PR活動
12:00	秋田駅前西口大屋根下	昼食
12:30	エリアなかいち にぎわい広場	PR活動
13:00	アゴラ広場	PR活動
13:30	秋田市市民市場	PR活動
14:00	秋田駅前西口大屋根下	閉会式
14:30	エリアなかいち にぎわい広場	PR活動
15:00	アゴラ広場	PR活動
15:30	秋田市市民市場	PR活動

した。

さらに、地元企業が行っている「サンワ市」やJA秋田みなみが主催する「営農ふれあいフェア」、秋田市通町で行われた「草市」等にも積極的に参加し、活動を広く秋田県内外の人にPRするとともに、開発商品の販売を行い、様々な地域の方に商品を購入してもらうことができた。



#### (2) イベントを企画し、CMを作成する

今年度はイベント班を5つとCM班を設け、集客を目的としたイベントの企画やAKI SHOPの活動をPRするCMの作成を行った。

イベント班ではステージイベントの他に竿燈やよさこいの披露、餅つきを行うとともに、全国からゆるキャラを集めて、多くのお客様に楽





## 平成29年度キッズビジネスタウンの取り組み

商業科 石田 雄 哉

今年度はキッズビジネスタウンがスタートして10年目であった。また、全国産業教育フェア秋田大会が開催され、その一部として秋田県生涯学習センターで実施された。今年度の活動を振り返り、10年目の節目として、これまでの活動についてまとめたい。

### 1 キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、子ども達に「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

### 2 平成29年度の活動

今年度は全国産業教育フェア秋田大会の一部として秋田県生涯学習センターにおいて、10月21日（土）、22日（日）に開催された。2・3年生の希望者は32名で、以下のように活動し

た。1年生は各店舗従業員として当日の活動に参加した。

#### (1)スケジュール

- ・ 5月：ガイダンス、基礎学習
- ・ 6月：店舗の模索、決定
- ・ 7月：企業への研修、交渉等
- ・ 9月：求人票、マニュアルの作成
- ・ 10月：店舗準備、1年生へ指導、本番
- ・ 11月：報告会

#### (2)今年度の開設店舗（32店舗）

分類	店舗名
公共施設	ハローワーク、銀行、税務署、消防署、警察署、病院
小売業	花屋、おもちゃ雑貨屋、コンビニ、デパート
サービス業	アスレチック、会社経営、結婚式場、テレビ局、宅配、ネイルサロン、新聞社
製造業	八橋人形工房、アクセサリー工房、癒やしグッズ工房、木工工房、はんこ工房
飲食店	ドリンクショップ、ポップコーン、アイス屋、ピザ屋、ホットドッグショップ、パン屋、ドーナツ屋、食堂、たこ焼き屋、ババヘラ

### 3 当日の様子

今年度は生涯学習センターということで施設的な制約が多く、電源の確保などで難航したが、事前に生徒たちと連絡調整をすることで、大きな混乱なく進めることができた。

1日目は218名（事前申込、当日受付含む）の小学生の参加があった。多少のトラブルもあったが、活動が軌道に乗るとスムーズに運営できていた。

2日目も224名（事前申込、当日受付含む）の小学生の参加があった。当日参加者の名札ケースが不足し、当日受付を中断するほどの大盛況であった。運営自体は、2日目ということで各所スムーズに運営できていた。

会場では全国産業教育フェアの次期開催県の視察も行われ、大変混雑していた。

事後アンケートから、参加者の感想は以下のようなものであった。初めての参加者も多かったようで、保護者からの改善の要望も多かった。

＜小学生アンケートより＞

	はい	いいえ
楽しかったか	98	0
お金の大切さを実感	97	1
ものの大切さを実感	96	3
来年も参加したい	94	2
秋商に入学したいか	57	33

＜保護者アンケートより＞

①何でキッズを知ったか

- ・過去に参加したから：25
- ・秋田市広報を見て：16
- ・ホームページを見て：5
- ・知人からの話：24
- ・学校からの通知：30

②来場した交通機関

- ・自家用車：90
- ・徒歩：2
- ・公共交通機関等：11

③満足度

- ・大変よかった：58
- ・よかった：34
- ・物足りなかった：6

④来年度も参加させたいか

- ・参加させたい：85
- ・遠慮したい：7

⑤秋商は子どもの進学先としては

- ・進学させたい：13
- ・候補に入れたい：57
- ・今は考えていない：25

## 4 実施上の課題

(1)受付について

今年度は、受付で大きな混乱が生じ、来場者からのクレームも多かった。事前に準備し、確実に参加者の名札等を確認することが必要であると痛感した。また、当日の受付体制の指導を詳細に行っておくことが大切であった。

また、当日参加者がシステムや注意事項を理解していないことも多く、それらの説明を配布するなどして周知する必要があると感じた。

(2)販売品の不足と売上のバランス

保護者からのアンケート結果を見ても「以前あったそば・うどん屋が欲しかった」「飲食店の出店がもう少し欲しい」「温かい食べ物があれば良かった」など飲食店の充実を求める声が多かった。さまざまな制約がある中での実施ではあったが、来年度以降は今年度の意見も参考にし、来て頂いた方々に喜んでもらえるように改善していきたい。

(3)来年度に向けて

来年度からは、会場が学校に戻るが、発電機の用意や受付対応など、今後の活動でも留意していきたい。

## 5 10年を振り返る

キッズビジネスタウンも10年目ということで、過去の活動を振り返っておきたい。

(1)開催の経緯

平成20年度から金融広報中央委員会より金融教育研究校の委嘱を本校で受けたことを機に、ビジネス実践の一分野として平成20年度から始まった。平成20年3月に、当時からキッズビジネスタウンを開催していた千葉商科大学に数名の教員で視察を行い、翌4月からビジネス実践活動に組み込んで行われた。

(2)過去の会場（上段）、参加者等（下段）

年度	詳細
20	ALVE 勝平小140名

21	学校前庭、イオンモール秋田
	勝平小137名、一般205名
22	学校校舎内、イオンモール秋田
	勝平小140名、一般289名
23	学校校舎内
	勝平・出戸小（人数不明）
24	学校校舎内
	勝平・出戸小194名、一般218名
25	学校校舎内
	勝平・出戸小180名、一般200名
26	学校校舎内
	勝平・出戸小175名、一般237名
27	学校校舎内
	勝平・出戸小175名、一般215名
28	秋田県立体育館
	1日目141名、2日目114名
29	秋田県生涯学習センター
	1日目218名、2日目224名

1年目の平成20年度はALVEの多目的ホールを会場に開催し、勝平小学校の生徒に参加してもらい実施した。

平成21年度は学校の前庭で開催したが、あわや台風直撃という危機に見舞われたため、翌年から校舎内に会場を移している。また、21年度にはイオンモール秋田から実施の依頼を受け、冬に商業科教員と担当生徒で開催した。翌年もイオンで行ったが、会場の制約等が多く、23年度からは学校での開催のみとなった。

平成22年度からはシステムフューチャー株式会社から協力をいただき、ハローワークのPOSシステムを導入した。

平成23年度からは勝平小学校に加え、出戸小学校から参加したいという連絡を受け、現在の形で実施するようになった。どちらの小学校もそれぞれの総合的な学習の時間の中に組み入れ、職業体験の一環として実施していたようである。

平成28年度は全国産業教育フェアのプレ大会に組み込まれ、他のビジネス実践も含めて土日開催になったため、毎年金曜日の登校日に参加してくれていた勝平小学校、出戸小学校は参加

不可能となってしまった。

平成29年度は全国産業教育フェアの一環として実施し、多数の来場者に恵まれた。

### (3)キッズビジネスタウンのこれから

10年を振り返ってみると、現在の実施形式が定着し、小学生の参加希望者も安定しており、地域に根ざした活動として開催できている。生徒たちにも、ビジネス実践の班として定着してきており、実際に参加した児童も本校に入学してきている。

毎年、少しずつの改善を重ねてきているが課題はまだまだあり、また定着がマンネリにならないよう、新たな方向性を模索する必要もあると感じる。

今後10年がさらに充実した活動となるように改善していきたい。

## 環境教育の試み

英語科 大堤直人

### はじめに

国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」が広く知られるようになるにつれて、この目標に沿って企業活動を行おうとする会社も増えてきた。教育の場では、「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の一環としてこのSDGsに取り組む学校も多い。本校のエコロジカルビジネス班の活動も、こうしたSDGsやESDを意識しつつ行われている。

### AKI SHOP以前の取り組み

秋田県「環境の達人」地域派遣事業により一般社団法人あきた地球環境会議から講師を派遣してもらい、6月22日には生物多様性の保全、6月29日には新エネルギーについての講座を受講した。

7月13日には、本校の生徒玄関と職員玄関の周辺の側溝に詰まっていた落ち葉や泥などを撤去し、雨が大量に降ったときに水が流れるようにした。かなりの労力が必要とされたが、学校の環境改善の一助となることができた。

10月19日には、株式会社コバリンのショールームを訪問し、もみ殻を再利用した各種ボードについて学ぶとともに、様々な木材の香りをかきながらゆったりとした時間を過ごすことができた。

### AKI SHOPでの活動

AKI SHOP初日、10月21日の午前中は、エコロジカルビジネス班の生徒たちが持ち寄った家庭の不要品を販売するフリーマーケットを開いた。その収益金と、ユネスコスクール班の当時に出版していた本の印税とを合わせて7,900円を、国連UNHCR協会を通して難民

のために寄付した。

その日の午後、約20名の生徒たちがマイクロバスに乗り込み、秋田市雄和地区のダリア農園を訪問した。約2時間の間、できるだけ多くのダリアを摘んだ。そのダリアは、翌日のAKI SHOP会場において来場者に無料提供した。生徒たちは茎の根元を水で濡らしたティッシュで包み、その上をアルミホイルで覆い、さらに透明なセロファン紙で包むなど工夫をして提供し、お客さんに喜ばれていた。

また、AKI SHOP 2日目には、秋田杉の廃材から箸を作成するコーナーを設置した。来場者が棒状の木材にヤスリをかけて自分なりの箸を作成し、講師の伊藤良治さんに仕上げてもらっていた。この箸は秋田杉の香りがし、軽くて持ちやすく、わりと長持ちするという特徴がある。



4年目となったダリア摘み

# 全国高等学校国語研究大会兵庫大会に参加して

国語科 近野祥子

平成29年11月15・16日の2日間にわたり、全国高等学校国語研究大会兵庫大会が開催されました。平成30年度に本県で同大会が開催されるため、その視察です。1日目は午前中に歓迎レセプション、文科省の講演が行われ、午後からは桂米團治、ざこばさんの記念講演および落語披露、その後に分科会が行われました。2日目は各会場に分かれての授業参観、研究発表があり、午後から各コースに分かれて文学研修があり、大変盛り沢山でしたが、主催者側の気持ちが伝わるあたたかい空気の中で、充実した2日間を過ごすことができました。ここに、順を追って大会の概要を紹介したいと思います。

## ●1日目

歓迎行事／文科省講演会／記念講演／分科会

開会式の歓迎レセプションでは、地元商業高校生による龍舞と獅子舞が披露されました。その後、文科省による講演が行われた後、午後から記念講演、分科会となりました。記念講演では落語家の桂米團治さんが、上方落語を復活させた人間国宝である父米朝さんについて語った後、落語が披露されました。会場の空気を掴み、反応を感じ取りながら徐々に自分の世界に引き込んでいく様子は、さすがプロです。ざこばさんは脳梗塞からリハビリを経ての落語披露ということでしたが、人としての厚み、年輪を感じさせる講演会で、その言葉は心に響きました。

分科会は、劇作家の平田オリザさんの「コミュニケーション教育の現在」を拝聴しました。ワークショップ型の講演会で、「理論と実践」を体感しました。これもまたさすがはその道のプロを感じさせる内容で、90分間があつという間でした。現代社会は、システム上、コミュニ

ケーションの必要性が徐々に低下しているのにも関わらず、教育現場ではコミュニケーションをより求めるようになってきている、その開きが問題なのだと先生は述べていらっしやいました。そして経済格差や文化的格差が地域によって著しい昨今では、その開きを埋めていく役割は公教育にあるということです。ワークショップも学校での授業に応用できるもので、とてもためになりました。



↑  
← 高校生による  
龍舞・獅子舞

## ●2日目

授業参観

私が訪れたのは芦屋国際中等教育学校という学校です。1学年80名のうち外国籍の生徒が30名、帰国子女が30名、その他生徒20名で構成されている（そのような枠組みで選抜をしている）学校で、同じ敷地内に別の県立の高等学校

があるという、大変特徴のある学校です。なぜ別々の学校が同じ敷地に建っているのか（もともと同じで分かれたか？）や、このような学校が設立された背景、あるいは地域の特色についていろいろ聞きたかったのですが、残念ながら質疑応答の時間がなく、聞くことはできませんでした。私が主に参観したのはディベートの授業です。タイトルは「移民は受け入れるべきか」で、まさに学校の特色にぴったりマッチしたタイトルで、生徒も自分自身のことに置き換えて意見を述べることができたのではないのでしょうか。パフォーマンス性に優れ、思考力のある生徒が一人いて、その生徒で成り立っていた感がありました。外国籍の生徒がほとんどですので、いわゆる日本人特有の婉曲的な言い回しや遠慮した物言いはなく、長所・短所について実に明快に指摘していたのが印象的でした。

その後の研究発表では、「実用物語文」という切り口で研究されている先生の発表を拝聴しました。兵庫県といっても広いので、当たり前ですがさまざまな学校があり、比較的学習困難な学校で実践されている先生の発表でした。「物語文」と「実用」という言葉は結びつきにくいと思うのですが、社会に出てから役立つものを、そして生徒のモチベーションを高めるため、そのような切り口で実践されているようです。どの地域でも学校事情によって到達目標はそれぞれであり、当然授業の切り口も目標にフォーカスしたものになっています。学校に期待されている役割を教員がしっかり認識していることは大切だと感じました。



↑ 研究発表の様子

## ●文学研修 ～須磨明石コース～

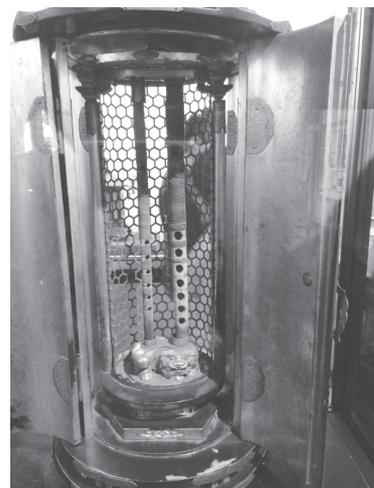
授業研修の後は、神戸市三宮駅前に集合し、須磨寺、孫文記念館、中崎公会堂を訪れました。



↑ 須磨寺の庭

須磨は源氏物語、平家物語ゆかりの地ということで、物語に思いを馳せながら見学しました。もちろんレプリカですが、青葉の笛も奉納されていました。

青葉の笛 →



← 孫文記念館

最後に、夏目漱石が完成記念講演を行った中崎公会堂を訪れました。海岸近くの松林の中にたたずむ大変雰囲気のある建築物でした。現在は武道やダンス等の練習会場として使用されているようですが、記念講演時には全国の漱石ファンが会場から溢れ出るほど集まり、漱石の講演に耳を傾けたそうです。



↑ 中崎公会堂入り口

## ●感想

学校は、地域の要請や期待のもとに存在するものであることを改めて感じた2日間でした。どこの県でもどこの地域でもその土地の歴史の変遷や事情があります。神戸は港町であるので、町並みにも異国情緒漂う地域があり、一種独特の文化を感じる町でした。

間もなく大学入試の大改革が行われます。やり方が変わっても、揺るぎない思考力があれば対応できるはずだと思う一方、都会の私立高校に比べ、地方の公立高校は対応に時差が生じることは必至であり、生徒は不安と混乱の中で初年度を迎えるのではないかという危惧もあります。積極的に学びの機会を持ち、新たな教育課程の中でも評価に耐えうる教員でありたいと思います。

# 「新任特別支援教育コーディネーター研修会」について

保健・教育相談部 戸田潤子

## ●はじめに

この研修会は秋田県総合教育センターにおいて3回に分けて行われ、多くの講師を迎えて内容も多岐にわたった。近年高等学校においても生徒が多様化し、配慮が必要な生徒が話題に上るようになってきた。平成30年度からは高等学校においても通級指導が開始されることになっている。このように従来小中学校で行うものという認識が強かった特別支援教育に、高等学校においても対応する必要が生じてきた。

## ●校内支援体制の整備が求められる背景

- ・平成19年 学校教育法の改正  
「特別支援教育」が学校教育法の中に位置づけられる
- ・平成19年 障害者の権利に関する条約（国連）に署名
- ・平成23年 障害者基本法の改正
- ・平成25年 障害者差別解消法成立
- ・平成28年 障害者差別解消法施行

障害を理由とする差別の解消を推進・・・学校においては障害のある生徒もない生徒も共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築を目指す。その実現に向けて、必要に応じて合理的配慮が求められることになる。

このように条約締結や国内の法整備が進み、特別支援教育を取りまく環境は急速に変化している。私たち高校教員にも、今後教員としての専門性が求められることになる。

- ・合理的配慮の否定は差別になることを正しく理解すること
- ・授業において、新しい概念の合理的配慮を踏まえた授業を行うこと

この合理的配慮は、障害のある生徒の学ぶ権利を保障するために公立の学校が負う義務である（私立は努力義務）。この合理的配慮については、個々の生徒の障害特性に応じて学校や外部の専門家、家庭が相談し、合意しながら決めていくことになる。

## ●発達障害について

発達障害とは胎生期を含めた発達期に様々な問題が作用して、中枢神経系に障害が生じた結果、認知、言語、社会性および運動などの機能の獲得が傷害される状態をいう。基本的には脳の機能の問題であり、育て方や愛情のかけ方などに起因するものではない。

発達障害の症状はADHD、知的障害、SLD（限局性学習症）、自閉症、アスペルガー症候群などに分かれるがその境界ははっきりしているわけではない。複数の障害が重複している場合もある。近年は自閉症についてASD（自閉スペクトラム症）という用語が用いられるようになっていく。以下の表に見られる発達障害への対応は、支援の必要な子にはないと困る支援だが他の子どもにはあると便利で役立つ支援となる。すなわちすべての子どもにわかりやすい指導となり、ユニバーサルデザインの視点に立つ学習支援と言える。

	障 害 名	有効な支援	対 応 例
SLD	知的な遅れは見られないが、読み書き計算、推論などの困難さを示す	本人に合った学習・個別的な指導・声かけ	支援プリント・机間支援・個別学習支援
ADHD	不注意（あるいは多注意）、多動、衝動性を示す行動、抑制の障害	集中できる工夫・話を聞く工夫・課題遂行の工夫	導入の工夫・スケジュール表（手順表）・事故評価表
ASD	社会性・コミュニケーション・想像力の困難さ・感覚の過敏とこだわりなどの同一性保持を示す	見通しを持つ・明確な伝え方・マイペースでできる	スケジュール表、視覚的な手がかり、効果的な板書、ICTの活用

### ●女子の発達障害について

- ・「個性」と捉えられ、それなりにできているように見えるため気付かれにくい
- ・女子同士の関係で悩みやトラブルが生じる（女子特有の話題に入れない）
- ・原因不明の体調不良（睡眠障害・めまい・頭痛・胃腸の不調）
- ・集団行動での孤立（状況・関係性の理解が苦手）
- ・思春期になっても家族が相談相手

女子の発達障害は見過ごされがちで大人になってから（就労などを通して）周囲が気付くことも多い。早めの気づきと対応が望ましい。

### ●環境の整備

#### ★学習環境への配慮

- ・整然とした環境（雑然・曖昧が苦手）・個人の持ち物の整理、管理の分かりやすさ
- ・プリント類の保管（ノートに貼る、綴じる→作業時間の確保）
- ・タブレットの活用、音声による記録

#### ★ルールの明確化

- ・事前に示す（みんなで共有できるルール）
- ・注意する基準を明確にする「好ましい行動」「好ましくない行動」「許されない行動」
- ・守れたことへの評価

#### ★座席の配慮

- ・特性に応じた座席・グループ、ペアワーク等、学習の効果を考えた座席

#### ★分かりやすい指示

- ・簡潔で具体的な指示・一度出した指示は途中で変更しない（人や場所を変えない）

#### ★見通しを持った生活

- ・予定はできるだけ文字で知らせる（変更は早めに）
- ・一日の予定を書いておくようなスケジュール帳（携帯端末等）の活用

#### ★必要な物を忘れない工夫

- ・事前に早めの連絡とメモを取る習慣づけ・忘れたときの対応を予め確認しておく

### ●具体的な支援・個への配慮

#### ★過程も認め、プラスの声かけを心がける

#### ★授業を妨げない関わり（非言語での対応）で伝える

- ・問題行動には表情、身振り、手振り・賞賛や同意は頷きや微笑み、視線の投げかけ
- ・望ましくない行動に注目しない（本人のすぐそばで全体に向けて指示するなど）
- ・スモールステップで、望ましい行動が見られたら積極的に評価する

★集団に対して明確な流れを示す。授業の構成を一定の形にすることで、落ち着き安定した状況で取り組むことができる。

### ●心がけたい対応

- ・感情的にならず淡々と事実を伝えるようにする。
- ・本人の発する言葉に惑わされない。
- ・本人のプライドを尊重する。
- ・教師がモデル。教師の接し方や言葉かけを他の子どもは真似る。
- ・小さなことでも成功体験につなげる。

★自己肯定感を高める支援（※自己評価の低い子どもは他者評価も低い）

- ・人を助けたり教えたりする役割を経験させる・まじめにこつこつと行う体験を積み上げさせる・行動や気持ちのコントロールの力を育む

### ●保護者の障害受容とそのプロセス

保護者にとって子どもへの障害の告知は大きな衝撃であり、その子の将来が暗く閉ざされた気持ちになる。障害の受容は次のような段階を経る。

1. ショック → 2. 否認 → 3. 悲しみと怒り → 4. 適応 → 5. 再起

この過程には長い時間を要することや、受容に至らないというケースもある。保護者がどの過程にいるのかを感じ取ってそれにあった対応をすることが必要である。この過程の中で保護者と学校あるいは担任との間にトラブルが生じることもあるが、保護者は教師と違ってこのような思いを持つものだという事を念頭に置いて対応するべきである。トラブルに発展する前に、保護者の思いがどこにあるのか正確に理解するために、担任一人ではなく関連する教諭と二人で聞くことも大切。大きなトラブルに発展するのは「対応の遅さ」や「対応の一貫性のなさ」である。担任は自分の責任と考えがちだが、そうではなく学校全体の問題である。トラブルに学校全体で対応できるようなシステム作りが必要である。

### ●就労に関して

発達障害を抱えながら普通高校に通う生徒の進路選択は家庭の考え方にも左右される。家庭で障害を受容していて本人に合った進路選択を考えているのであれば、進学・就職どちらの選択をしたとしても本人にとって前向きな選択を考えるであろう。しかし障害を認識していない、あるいは受け入れていない生徒や家庭の場合、いったん就職したとしても不適応を起こして離職するケースが多く見られる。また進学を選択したとしても2～4年後に求職するタイミングで再び進路選択を迫られることになる。

特別支援学校以外でも障害者就業・生活支援センターの支援を受けて就職するケースもある。（障害者就業・生活支援センター事業は平成14年にスタートし、平成28年4月時点で秋田県の8つの圏域全てに設置済みとなっている。）支援対象となる障害は〔・身体・知的・精神（未発達・高次脳）・その他（手帳未所持・難病等）〕となっている。以下は高等学校卒業生の就職に同センターが支援を行った事例である。

### 高等学校からの支援事例

某高校3年秋、学校からの依頼で学校訪問。学校、保護者、センターの三者で面談。本人概要：成績は低位、対人技能も未熟。本人、学校に対して障害者雇用や障害者手帳（メリット・デメリット）について情報提供。

卒業後本人の意向により学卒採用で就職するものの、求められる作業種や作業量がこなせないことと対人不適応（困ったときに質問できない）を理由に3ヶ月で離職。

支援を受けての再就職を希望し、療育手帳を交付申請。判定～交付までの期間（約2ヶ月）並行して障害者職業センターに相談。職業評価を受けた後、8週間の職業準備支援〈訓練〉事業を受講する。療育手帳・等級「B」取得後、ハローワーク・専門支援部門に求職登録。

求職活動開始 → 面接同行・職場実習を経て障害者雇用として採用～就職。

20才到達時に障害基礎年金申請 → 審査～支給決定まで約3ヶ月 → 2級受給（2ヶ月分として約13万円）。現在も就労継続中。採用当初は週20時間の短時間勤務であったが、仕事ぶりが評価され週30時間に変更。貯めたお金で自動車学校に通い免許取得。自家用車通勤している。

障害者雇用の選択には療育手帳等の取得が必要になる。これにはメリット・デメリットがあるが、選択肢の一つとは考えられる。

### ●終わりに

特別支援教育コーディネーターの役割について予備知識もほとんどなくスタートした研修だったが、3日間の研修を通して「特別支援教育」に関する全般的な知識やコーディネーターの役割、今後の課題等多くのことを教えられ、考えさせられた。本校においても生徒は多様化しつつある傾向が見られ、今後個別の対応が必要になってくることも想定しておかなければならない。個々の生徒が生活しやすい環境に配慮することは学校全体の活動をスムーズにすることにつながり、全ての生徒にとっても生活しやすい環境になるはずである。

# 高等学校中堅教諭等資質向上研修を受講して

保健・体育科 佐藤 寛 仁

採用されてから11年目を迎え、法定研修として最後の中堅教諭等資質向上研修を今年度受講した。教育公務員特例法の改定により、旧来は10年経験者研修、いわゆる10年研として行われていたが、今年度より名称が変更された。「中堅」という響きに、自分はもうそのような立場になったのかと、戸惑いが正直あった。現状では教諭でも下から数えた方が早いことと、担任としても下の年齢だからである。また、主任のような仕事もしておらず、研修の目的でもある、中堅教諭として学校運営や若手教員の指導ができるとは一切考えたことはなかった。しかし、研修を受講する中で、改めて教員としての資質を向上させるために、学校運営に関する知識や、キャリア教育、道徳教育といった重要な項目に関する事など、多くのことを学ぶとともに、自分の勉強不足を痛感した。今回の研修を通し、郊外研修、センターで行われた各種講義・演習、秋田工業高校で行われた授業研修についてまとめみた。

## ①校外研修

校外研修を行うに当たって、本校では商業高校として、事務系に必要な学習を学んでいるというイメージから、事務的な仕事を経験してみたいと考えていた。そこで、本校柔道部員の保護者であり、OBであり、PTA会長でもある石井さんが経営する「株式会社秋田ふれあい」にお願いをした。石井さんより快く引き受けていただき、3日間の研修を行った。研修内容は多岐にわたったが、中でも自動車保険に関する研修は、知らないことが多く、勉強になった。事務職ではパソコンを使いこなせる必要があると考えていたが、使いこなすだけでなく、どういう目的を持って使うかが大事であり、仕事に対する知識をしっかりとっておく必要があると学んだ。学校現場においても、生徒に指導するためには、教師側がしっかりと知識を持っており、それをどれが生徒に必要なか選択する力が必要なのだと感じた。教員の仕事しかしてこなかった私にとって、違う業種から改めて考えさせられ、充実した3日間だった。

## ②センター研修

総合教育センターでの研修は、全部で5回行われた。その中でも、授業づくりと道徳教育、教育相談についての講座が一番印象的であった。まず授業づくりについてだが、改めて同期採用の先生方と授業について話し合い、お互いの成長とまだまだある改善点に、採用当時のやってやろうという高揚感を感じることができた。特にアクティブラーニングの視点に立った授業についての討論では、お互いの積み重ねた経験を聞き、自身の成長も感じるとともに、同期には負けていられないと強く感じた。

道徳教育についての講義では、高等学校において道徳教育の年間計画が各校で作られているということで、正直本校の年間計画を把握しておらず、勉強不足を感じた。他校の年間計画を見ても、非常に考えて作られており、ここで得た知識を少しでも本校に貢献していくことができればと思った。

---

---

教育相談についての講義では、他校の気になる生徒の事例を含め、自分が普段悩んでいることに対してのアドバイスだけでなく、他校の先生の事例に対するアドバイスを考える中で、非常に多様な生徒がおり、時代にそった指導をしていかなくてはいけないということを強く感じた。担任をする上でも、教育相談についてはより知識をつけ、活用できなくてはいけないと思った。

### ③授業研修

9月4日、秋田工業高校を会場に授業研修が行われた。私は1年生の電気科で保健の授業を行った。いつも女子が多い本校に比べ、ほぼ男子というクラスに圧迫感を感じた。しかし、生徒の多くは運動部に所属しており、昨年度担任をしたD組の男子生徒を相手にしているような感じであったため、比較的スムーズに授業を行うことができた。ただ、スムーズに行いすぎたため、最後に時間が余ってしまった。普段から授業における時間配分が課題であるので、改善していきたい。グループでのコミュニケーションを図る授業を展開するよう心がけたが、話し合いがスムーズにいかない班に対するアドバイスの仕方、こちらのねらいに沿って話し合えるような題材の工夫も必要だと感じた。ここで学んだこと、感じたことを今後本校の授業に還元していきたい。

学ぶべきことが多かったが、それを中堅教諭として多方面で還元していくことが大切だと思う。今回の研修を通して、保健体育科の先生方、研修主任の大関先生、その他多くの先生方に助けていただき、とても感謝している。今後も期待を裏切らないよう、誠心誠意学校業務に努めていきたい。

# 校内年間研修報告書

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員：佐藤 寛仁（保健体育科・1年F組担任） 校長：佐藤 武

教 → 教科指導等研修      生 → 生徒指導等研修

実施月日 (曜日)	研修内容	研修方法・形態	全体・個別の区別	時間割内・放課後の別	研修時間	研修指導者
4/19(水)	10年研修の進め方	生 講義→一般研修	個別	内(2)・放	2	研修主任
5/8(月)	教育目標の達成と学校経営について	生 講義→一般研修	個別	内(5)・放	2	校長
12(金)	高校教育の現状と課題	生 講義	個別	放	2	教頭
18(木)	法規に関する事例研究	生 講義→一般研修	個別	放	2	教頭
25(木)	P T A ・地域と連携について	生 講義→一般研修	個別	放	2	総務主任
6/8(木)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	2	保健体育科主任(教育実習生)
12(月)	教材研究と指導案の作成指導	教 授業指導	個別	放	2	保健体育科主任(教育実習生)
15(木)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(4)・放	2	保健体育科主任(教育実習生)
19(月)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(1)	1	保健体育科主任(教育実習生)
19(月)	校内研修「特別支援が必要な生徒への対応」	生 講義	全体	放	2	外部講師
20(火)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(2)	1	保健体育科主任
21(水)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(2)・放	2	保健体育科主任
22(木)	授業実践に基づく授業研究	教 授業研究	個別	内(5)・放	2	保健体育科主任・科員
7/3(月)	教育課程の編成・教務内規について	生 講義→一般研修	個別	放	2	教務主任
6(木)	生徒分析と個人面談計画の作成	生 講義→一般研修	個別	放	2	学年主任
12(水)	保健室利用の実態について	生 講義	個別	放	1	養護教諭
8/21(月)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(5・6)・放	4	保健体育科主任
28(月)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(5・6)・放	4	保健体育科主任
9/1(金)	教材研究と指導案の作成	生 授業研究	個別	放	1	保健体育科主任
5(火)	授業実践に基づく授業研究	生 授業研究	個別	放	1	保健体育科主任
11(月)	生徒指導に関する事例研究	生 一般研修	個別	放	1	生徒指導主事
10/11(水)	部活動・生徒会活動に関する事例研究	生 講義	個別	内(5)	1	特活主任
18(水)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(5)・放	2	保健体育科主任
27(金)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(3)・放	2	保健体育科主任
11/13(月)	教材研究と指導案の作成	教 授業研究	個別	内(6)・放	2	保健体育科主任
16(木)	授業実践に基づく授業研究	教 授業研究	個別	放	2	保健体育科主任・科員
17(金)	授業参観と助言	教 授業指導	個別	内(4)・放	2	保健体育科主任(若手教員)
12/5(火)	特定課題研究の中間まとめ	生 一般研修	個別	放	2	研修主任
1/15(月)	校内研修「学校を巡る近年の変化」	生 講義	全体	放	2	外部講師
16(火)	選択研修の成果と課題	生 講義	個別	放	1	校長
23(火)	進路指導の現状と課題	生 講義	個別	放	1	進路指導主事
2/16(金)	特定課題研究の成果と課題	生 一般研修→講義	全体	放	2	校長以下全員

実施日数 合計	研修方法・形態別の研修日数 (時間数)				時間割内 研修時間計 (a)	放 課 後 研修時間計 (b)	研修時間 合計 (a + b)
	講 義	授業研究	授業指導	一般研修			
32	14 (17)	11 (23)	5 (9)	9 (10)	16	43	59

## 選 択 研 修 計 画 書

研修教員 氏 名	佐藤 寛仁	所属校	秋田市立 秋田商業高等学校	所属校 連絡先	TEL 018-823-4308 FAX 018-823-4310
学びたい こ と	商業高校で生徒指導するにあたり、実際の現場における事務職としての仕事内容及び必要な資格等について学び、それをクラスや部活動の生徒に還元できるようにしたい。				
研 修 先	株式会社 秋田ふれあい		依 頼 状 (礼状) 送 付 先	〒010-0951 秋田市山王5丁目11-24 TEL 018-896-6010 FAX 018-896-6026	
代表者名	石 井 明		代表者の 正式職名	代表取締役	
研 修 担当者名	中 村 尚 人		研修担当者の 部・課名	営業部長	
月 日 (曜)	研 修 時 間		内 容		
第1日 7月25日(火)	8:30 ~ 12:00 12:00 ~ 13:00 13:00 ~ 16:00		システムの管理研修 休憩 (休憩時間を明示すること) 見積もり・申込作成、商品内容研修、顧客対応力研修		
第2日 7月26日(水)	8:30 ~ 12:00 12:00 ~ 13:00 13:00 ~ 16:00		システムの管理研修 休憩 (休憩時間を明示すること) 見積もり・申込作成、商品内容研修、顧客対応力研修		
第3日 7月27日(木)	8:30 ~ 12:00 12:00 ~ 13:00 13:00 ~ 16:00		システムの管理研修 休憩 (休憩時間を明示すること) 見積もり・申込作成、商品内容研修、顧客対応力研修		

## 選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 佐藤 寛 仁
研 修 先	株式会社 秋田ふれあい		
研 修 期 間	平成29年 7月25日（火）～平成29年 7月27日（木）		
1 研修の概要			
<p>保険の代理店業務を主として行う秋田ふれあいで就業体験を行った。事務的な仕事だけでなく、保険関係についても学ぶこととなった。</p> <p>1日目は基本的な保険の中身について、具体的に講話していただいた。保険代行業務には資格が必要であり、その資格取得に使用するテキストを中心に進めていったが、初めて聞くことが非常に多かった。午後からは実際にパソコンを利用して自動車損害賠償責任保険の作成も体験した。</p> <p>2日目は実際の事故を例に、保険の活用についての事例や報告書の作成に関わった。特に前日ちょうど起こったという自転車の接触事故が、高校生でも多く見られるケースということで、注意点を教えていただいた。また、私が加入している自動車任意保険の具体的な説明を受けることができた。</p> <p>3日目はパソコンを使った各種保険の見積書作成を行った。パソコン操作は苦にならなかったが、専門用語や聞いたことが無い用語が多く、悪戦苦闘しての作成となった。</p>			
2 研修の成果			
<p>事務的な仕事だけでなく、お客様対応を含め、多くのことを体験することができた。教育現場においても様々な保険があり、体育の事故対応や部活動遠征における保険についても、安易に考えてはならないと改めて感じた。特に、自転車の交通事故については事例も併せて話を聞くことができたが、本校では自転車事故が非常に多いため、個人での保険加入も含め、保健の交通安全の項目でも注意喚起をしっかりとっていく必要があると感じた。</p> <p>私は今まで教員という仕事を通して、介護体験で特別養護老人ホームでの仕事は経験したことがあるが、事務的な仕事は初めての体験であり、非常に大変だと率直に感じた。特にパソコンに向かって長時間入力する保険作成は、今でこそある程度の外枠ができているが、以前は全て手入力だったことを考えるとかなりの労力だったと思う。そういった業務だけでなく、お客様への対応、電話応対など、様々な方面で丁寧な対応が必要とされるということから、多岐にわたる業務を必要とする職種なのだと感じた。安易に思いつく職業として事務系と答える生徒が多いように感じるが、この職種に求められるのは、基本的な事務作業プラス人への対応なのだとことを生徒に指導していかなくてはいけないと思った。また、私自身も授業だけでなく、保護者や外部の方への対応も丁寧にしていかななくてはいけないと改めて感じた。</p> <p>今回の就業体験を通し、今後の教員人生において知識の幅を広げることができたことはもちろん、非常に有意義な経験をすることができた。いかに教育現場に還元できるかが、今後問われていくことだと思う。今一度しっかり研鑽していきたい。</p> <p style="text-align: right;">(A 4判 1～2枚程度)</p>			

## 特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 佐藤 寛 仁
研究分野	㊦ 教科指導    B 学級・学年・学校経営    C 生徒指導 D 進路指導    E 特別活動に係る指導    F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導    H その他		
研究テーマ	グループ活動から主体的に考える活動につなげる授業		
1 研究の概要			
<p>本校の生徒は3分の1が就職、3分の2が進学となっている。その中で、就職はもちろん、進学でも指定校推薦が多いため、面接が非常に重要になってくる。そこで、担当する1年生の保健で、常に4人のグループで授業する形態をとり、わずかなことでもグループで話し合う場面を意図的に作ることにした。また、その活動を通して、授業の理解を深めるということにもつなげていきたいと考えた。ねらいとしては、①グループ内でのコミュニケーションを図る、②様々な意見を聞き、考え方の幅を広げる、③互いが授業態度を見ることで居眠りや他のことに意識をそがれないようにする、④一人ではできないことを協力して取り組むことで自信につなげる、の4つである。やはり面接では話すという基本的なことができなくてはいけないと考え、班内で「話す」場面を作った。また、自分たちから問題点を考え、それを解決するための方法を話し合うなど、主体的な活動を通し、授業に対する興味・関心だけでなく、理解を深めることをねらいとした。生徒の実情としては、入試の成績もここ数年の中では高く、比較的考えることはできる生徒が多い。しかし、自分の考えを話すという点では力不足に感じられるところがある。</p>			
2 成果と課題			
<p>1年生は1クラス40人編成のため、4人で1グループとし、10の班を作成した。最初の授業でランダムに出席番号を組み合わせた班を提示し、こちらの指示した人で班を作らせた。高校生活がスタートしたばかりということもあり、すぐに会話ができるとは思わなかったが、このグループをきっかけに初めての人とも話せればと考えた。結果としては、話が活発にできる班とそうではない班がはっきりとした。そのため、2学期以降は自分たちで班を作成させたところ、活発な話し合いが行われるようになった。授業の内容としては、今までのグループ活動に比べると、いろいろな意見交換ができており、主張できる場面が多く見られ、グループで考えシートを作成するといった活動も主体的に行われていた。課題としては、グループによっては大人しいグループもあり、意見交換をしきれていない班もあった。そのような班に対し、もう少し具体的なアドバイスを機会を意図的に作るべきだった。また、グループ活動をより授業の目的に結びつけ、それを利用した授業展開がもっと多ければ、生徒の理解を深めることにもつながったと思う。次年度以降も、この方法をより改善し、こちらの狙った授業作りができるよう努力をしていきたい。</p> <p style="text-align: center;">(A 4判1～2枚程度、研究にかかわる資料等があれば添付すること)</p>			

## 平成29年度 研修対象者・研究会等参加者一覧

### 【センター研修】

#### ◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

20 高等学校中堅教諭等資質向上研修講座 (旧10年研)	佐藤 寛仁	①6/30 ②8/3 ③9/8 ④10/19 ⑤1/11
28 新任教務主任研修講座	木村実樹夫	①5/25 ②9/5 ③10/20
31 新任学年主任講座	近野 祥子	①5/11 ②6/29
37 専門的実践力向上研修講座	大関 由理	8/7
40 高等学校講師等研修講座	藤原 一誠	①4/17 ②6/9

#### ◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

4 民謡から広がる我が国の伝統的な歌唱	池田 孝幸	10/27
12 これからの運動部活動の在り方	佐藤 寛仁	5/15

#### ◎C講座（専門研修講座）自主的に受講する研修

16 JTE English Workshop	工藤 裕文	7/5
24 教育相談に生かすカウンセリングの技法	舟木 志保	11/10

※免許更新開始 船山毅・菊地亜紀・今聡・小林克・高橋賢右・大関由理

### 【その他】

新任特別支援教育コーディネーター研修会	中村隆敏教頭 戸田 潤子	②7/4のみ ①5/26 ②7/4 ③11/7
通級指導教員等専門性向上事業公開研修会	中村隆敏教頭	9/8
キャリア教育実践研究協議会	近野 祥子	10/30
全国高等学校国語教育研究連合会兵庫大会	近野 祥子	11/16～17
著作権セミナー	泉 広宣	1/31
秋田中央高校SSH「躍進」探求活動発表会	野呂耕一郎	2/26
日本カウンセリング学会 北東北支部会 公開研修会	石田 雄哉	3/21

【中高連携関係】

<p>小・中・高・特別支援学校連携協議会 (勝平中学校授業参観)</p>	<p>中村隆敏教頭 泉 広宣 工藤 裕文 野呂耕一郎 戸澤 恵 千田 義人 佐々木ひな子 樋泉 淳 大関 由理</p>	<p>5 / 10</p>
<p>勝平中学校特定授業参観及び教科研究協議会</p>	<p>加藤雅人教頭 千田 義人 柏谷亜紀子 佐々木一秀 大関 由理</p>	<p>11 / 9</p>
<p>勝平中学校2年生 商業科目授業体験</p>	<p>佐藤 和佳 柏谷亜紀子 菅原 健太 佐藤 俊平 藤原 一誠</p>	<p>2 / 14</p>

合計23名 (延べ36名)

# 編集後記

## 研修部員から

第2回研修会の記録を担当させていただいて、今の学校には教科以外にも様々な重い責務が課せられている事を勉強しました。この研修集録を熟読し、研修を深めたいと思います。

戸澤 恵

研修部員として、様々な研修の準備等を進める中で、研修を通してどう授業に生かしていくか、学ぶチャンスをどう生かすかということを考えさせられました。研修集録を通して、日々の中に学ぶことがたくさんあることを実感し、来年度は日々の中にある学ぶべきことに気づける教員になりたいと思います。

柏谷亜紀子

知らないことを知る楽しさ、知っていることが出来るようになることの難しさを味わいながら来年度も多くのことを学び、高めていきたい。

小林 克

授業公開週間の授業内容やアンケートをまとめるにあたり、先生方の工夫や気づきなどを学ぶことができました。これからも研修の機会を大切にして、自己研鑽していきたいです。

大久保 薫

今年も生徒の直向きな姿に元気もらった1年でした。生徒の可能性を少しでも伸ばすため、良い授業、適切な指導をすることが、私たちに求められていることだと思います。今後も研修の機会を大事にし、指導力の向上に努めたいと思います。

舟木 志保

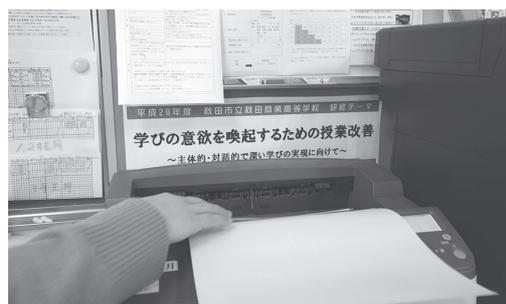
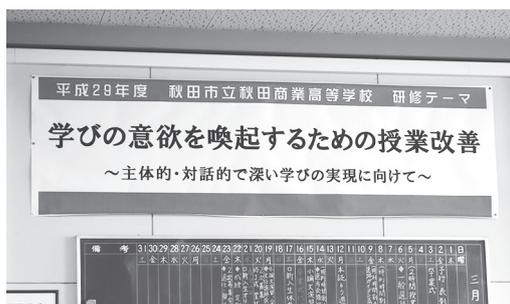
本校に赴任して1年が過ぎようとしている。日々の授業の中で「学びの意欲を喚起」できただろうかと自問するこの頃である。

樋泉 淳

気がつけば、今年も『研修集録』発行の時期となりました。年々年月の過ぎるのが速く感じられるのはなぜでしょうか。さて、今年度の研修部のスローガンは「校内研修は全員参加で」でした。先生方の協力と賛同を得ることができたことが何よりの収穫です。来年度も引き続き、校内一丸となった研修を企画運営できたらと思っています。

最後になりましたが、本集録に寄稿・協力してくださった方々、そして、読んでくださった方々に心より感謝申し上げます。

大関 由理



平成29年度 研修集録

発行日 平成30年 3 月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台 1 - 1

T E L 018-823-4308~9

F A X 018-823-4310

印刷所 株式会社フロム・エー

題字・校訓揮毫 熊谷 弘(旧職員)



校 訓

感謝  
勤勉  
鍛鍊